

秘

海軍公報 第四九九八號

昭和二十年五月一日(火) 海軍大臣官房

○令 達

達第八三號

海兵團練習部規則中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十六日

海軍大臣

第二條第一號中「大阪海兵團練習部、」ノ下ニ「田邊海兵團練習部、」ヲ加ヘ、同條第二號中「及高雄海兵團練習部」ヲ、高雄海兵團練習部及田邊海兵團練習部」ニ改ム

附則

本達ハ昭和二十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(海軍諸例則卷一、三六五頁參照)

達第八四號

航空兵器經理規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十六日

海軍大臣

第四條中「第一類、第二類及第三類」ヲ「第一類乃至第八類」ニ改ム

第二十二條中「證憑様式ヲ用ヒ理由ヲ附記ス」ヲ「航空兵器定數表及出納票ヲ用ヒ出納票ニ其ノ理由ヲ附記ス」ニ改ム

祕海軍公報 第四九九八號 昭和二十年五月一日

別表第一號、第二號及第四號、第五號ヲ夫々別表ノ如ク改ム
別表第三號中

裝備搭載兵器	飛行計器	動力計器	搭載兵器
各種計器、自動操縱裝置、酸素吸入裝置、冷却器、履帶裝置、消火器、炭酸ガス燈、救命具、落下傘、煙幕電池、右關聯兵器、飛行機用油、照明裝置各種、著	水平計、定針計、旋回計、昇降計、高度計、速度計、傾斜計、荷重計、航空羅針器、氣溫計、ヒト管、吸氣筒、真空計、右關聯兵器、消耗品等	回轉計、燃壓計、油壓計、液壓計、壓力計、溫度計、燃油計、燃壓計、油壓計、液壓計、壓力計、溫度計、カス比計、燃料計、右關聯兵器、消耗品等	自動操縱裝置、救命具、落下傘、消火器、飛行機用油、炭酸ガス燈、救電機、蓄電池、右關聯兵器、消耗品等

改ム
別表第六號中「魚雷(完備)」ノ下ニ「各種乘用自動車、貨物自動車、作業車、特殊車輛」ヲ加フ
(別表添)

官房教機密第三二八號

昭和二十年四月二十七日

海軍大臣

海軍特別幹部練習生教育綱領左ノ通定ム

海軍特別幹部練習生教育綱領

第一條 本教育ハ特別幹部練習生ヲシテ軍人精神ヲ涵養シ体力

四五五

ヲ練成シ軍紀ニ慣熟セシメ海軍兵トシテノ基礎軍事教育ヲ實施スルト共ニ學術技能ヲ修得セシメ下士官トシテ其ノ職務ヲ遂行スルニ必要ナル素養ヲ與フルヲ以テ本旨トス

第二條 本教育ハ之ヲ分チテ基礎教育及術科教育トス
基礎教育ニ於テハ訓練ヲ主トシ海軍兵トシテ必須ノ軍事教育ヲ實施スルト共ニ下士官トシテ必要ナル一般識能ヲ付與スルモノトス

術科教育ニ於テハ各兵種特別ニ從ヒ下士官トシテ必要ナル専門技術ヲ付與スルモノトス

基礎教育及術科教育ハ適宜之ヲ併セ實施スルコトヲ得

第三條 基礎教育ニ於テ課スベキ教育科目左ノ如シ

科	項目		記事
	訓練	教育	
精神教育	助諭術義、訓話、精神的鍛練行事等	助諭術義、訓話、精神的鍛練行事等	
	日課諸作業、諸點檢、諸教練、野外演習等	日課諸作業、諸點檢、諸教練、野外演習等	
體育	武技、體技、體操	武技、體技、體操	
	陸軍教練、執銃教練、部隊指揮法、陸軍要務、小銃拳銃射擊等	陸軍教練、執銃教練、部隊指揮法、陸軍要務、小銃拳銃射擊等	
軍用術	短艇指撥及擲擧法、短艇走法、擲擧要法、艇員心得、船體訓練等	短艇指撥及擲擧法、短艇走法、擲擧要法、艇員心得、船體訓練等	
	帝國海軍制度、班制度、帝國海軍一週、班制度、班制度、班制度	帝國海軍制度、班制度、帝國海軍一週、班制度、班制度、班制度	
軍制	艦船職員服務規程、艦內編制令、軍令、海軍旗章令、海軍禮式令、海軍禮節令、海軍禮節令、海軍禮節令	艦船職員服務規程、艦內編制令、軍令、海軍旗章令、海軍禮式令、海軍禮節令、海軍禮節令、海軍禮節令	
	帝國海軍一週、班制度、班制度、班制度	帝國海軍一週、班制度、班制度、班制度	
諸法	令、海軍旗章令、海軍禮式令、海軍禮節令、海軍禮節令、海軍禮節令	令、海軍旗章令、海軍禮式令、海軍禮節令、海軍禮節令、海軍禮節令	
	令、海軍旗章令、海軍禮式令、海軍禮節令、海軍禮節令、海軍禮節令	令、海軍旗章令、海軍禮式令、海軍禮節令、海軍禮節令、海軍禮節令	

科		項目	
部	軍	見	學
海軍	海軍	海軍職衛ノ概要	海軍職衛ノ概要
海軍	海軍	航海術	航海術大意
海軍	海軍	見張法	戰闘見張法、保安見張法
海軍	海軍	手旗信號法	
海軍	海軍	手先信號法	
海軍	海軍	諸兵器概要	對潛及水雷兵器、航空機、潛水艇等
海軍	海軍	傷病應急處置	人工呼吸法、止血法、應急製創法、傷病者運搬法
海軍	海軍	軍	各種艦艇、航空隊、防衛隊、陸上砲臺等ヲ見學セシム

第四條 術科教育ハ術科別ニ從ヒ其ノ教育綱領ノ定ムル所ニ依リ當該普通科練習生教程ニ準ジ各專修別ニ之ヲ實施ス

○通牒

教育機密第一九一號

昭和二十年四月二十七日

海軍省教育局長

各鎮守府參謀長
海軍經理學校長 殿

海軍特別幹部練習生教育ニ關スル件申進

海軍特別幹部練習生ノ教育ハ本年官房教育機密第二三八號ニ依ルノ外左記ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

記

海軍特別幹部練習生基礎教育教程標準 (三三)

考備	總計	科目	雜			學事			軍			育			科目	項目	記	事	標準回数	
			軍歌	見張法	諸法規	軍制	航海術	海軍職務ノ概要	諸法規	軍制	運用術	砲術	體育	訓練勤務						精神教育
標準回数、午前午後各一回ト看做シ概ネ三時間ヲ標準トス	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	八	八	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	

20.5.2

(達第八四號別表第一號)

(昭和二十年五月一日海軍公報)

長信通 (空航)	飛行							主管別 類別	
	第八類	第七類	第六類	第五類	第四類	第三類	第二類		第一類
各種送受信機、各種無線電話機、方位測定機、航空機用無線電信機、測波器、鑑査機、印字機、水昌發振子、空中線裝置、發電機及發電機機(無線用)、充電器及整流器(機)(通信用)、蓄電池(通信用)、無線自動車、右附屬器具試驗器具等	各種乘用自動車、貨物自動車、作業車、特殊車輛 右附屬器具試驗器具等	發電機及發電機機(無線用ヲ除ク)、充電器及整流器(一般用)、蓄電池(通信用ヲ除ク)、電動機、電氣サイレン、探照燈、照明兵器、電路兵器、起動用空氣壓縮ポンプ、起動氣蓄器、電氣時計、扇風機、電氣器、電氣暖房、電氣鎖付器、電氣掃除器、電氣淨水器、淨水測定器、移動輕便發電裝置、携帶電燈(無電池式ヲ含ム)、懐中電燈、整備燈、ゴム製硫酸燈、高聲令達機、航空燈臺 右附屬器具試驗器具等(飛行機々(艇)體用ヲ除ク)	各種乘用自動車、貨物自動車、作業車、特殊車輛 右附屬器具試驗器具等	發着兵器、格納庫、空氣壓縮機各種(一般用)、野外天幕、消火器(一般用)、起重機各種、兵器運搬車、偽裝網、潤滑油加熱車、潤滑油及燃料ポンプ、燃料補給裝置、燃料補給車、器具運搬用機、鐵線各種、各種ホイスト、飛行場應急補修器具、陸上風向指示裝置、信號布板、自動揚機、着陸指導燈、着陸地場帶標示燈、揚爆彈裝置、爆彈運搬用浮舟及同船外機、洋上補給裝置、固縛裝置、燃料積入裝置、飛行機(艇)繫留裝置、運搬浮舟、燃料補給浮舟及同船外機、大艇揚陸裝置、組立式棧橋、スヤス、水上運搬艇、水上作業艇、風向指示器、着水場標示燈、着水場照明燈、着水指導燈、雨水採取器、着陸演習機、燒鈍爐(陸上用)、艦船用、移動輕便修理機械、酸素ガス充填裝置、炭酸ガス充填裝置、埋發油ガス檢知器、操縱訓練車、炭酸ガス容器、酸素ガス容器、射出實驗用ゾミ 右附屬器具試驗器具等	飛行計器、動力計器、自動操縱裝置、酸素吸入裝置、酸素塚(航空機搭載用) 右附屬器具試驗器具等	航法兵器、光學兵器、寫真兵器、磁氣探知機、適性檢査器、偵察關係訓練用兵器、同用模型 右附屬器具試驗器具等	魚雷、空雷、航空機雷、火工兵器(雷擊用)(演習、訓練、試驗用ヲ除ク) 右附屬兵器	飛行機(艇)、飛行機々(艇)假、發動機、プロペラ、搭載兵器(他類ニ屬スルモノヲ除ク)、航空機整備用諸器具 右附屬器具試驗器具等	航空兵器(備品)主管類別表

1767

(達第八四號別表第二號)

(昭和二十年五月一日祕海軍公報)

長信通 (空航)	長 行 飛								主管別 類 別
	第 八 類	第 七 類	第 六 類	第 五 類	第 四 類	第 三 類	第 二 類	第 一 類	
各種無線電信機、各種電線電話機ノ各消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	電球各種、刷子、ヒューズ、ヒューズ筒、ヒューズ栓、電燈管、覆硝子(航空機用ヲ除ク)、乾電池、補用電線、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗品(飛行機々(艇)體用ヲ除ク)	各種自動車ノ消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	發着兵器及一般基地用兵器ノ各消耗品 炭酸ガス、酸素 其ノ他修理保存用消耗品	飛行計器、動力計器、自動操縱裝置ノ各消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	航法兵器、光學兵器、寫眞兵器ノ各消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	雷撃兵器ノ消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	火工兵器(演習、訓練、試驗用) 射撃兵器、爆撃兵器ノ各消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	飛行機(艇)體、發動機、プロペラ及同用關係兵器ノ各消耗品 其ノ他修理保存用消耗品	航空兵器(消耗品)主管類別表 目

備考	長信通(空航) 飛行 飛						長信通(空航) 飛行 飛						主管別	航空廠整理兵器				
	品 耗 消						品 備											
	第八類	第七類	第六類	第五類	第四類	第三類	第一類	第八類	第七類	第六類	第五類	第四類	第三類	第二類	第一類	類別		
海軍航空廠ニ於テ調達困難ナル場合ハ海軍航空本部ニ於テ調達ス	蓄電池液、覆硝子各種、ヒューズ、ヒューズ筒、ヒューズ檢、支持棒、電球(小型携帯、懐中電燈、整備燈用)、前面硝子(事業燈用ヲ含ム)、開座、衛帶類、蓄電池檢電器管、收納品、蒸溜水檢査用硝子及試驗管、同用藥品、電燈管、乾電池、帶酸蒸溜水、蒸溜水壘、注液壘、カドミニウム試驗器、滴壘、寒暖計、比重計、變壓器油、ゴム管(飛行機(艇)體用ヲ除ク)	消耗品全部	消耗品全部	消耗品全部	消耗品全部	消耗品全部	塗料、ボイテン索、爆彈投下索、ゴム管、アンモニア、ニツケルソルベンド、パツキン類(射撃兵器用)、手入用フランネル、各種補用品箱内消耗品、各種要具箱内消耗品	各種覆、各種要具箱内要具	電氣外瓶、受金、各種要具筐(靴、收納品、陽極板(電氣蒸水器用)、素麴筒(同上)、陰極隔膜(同上)、携帶電燈、懐中電燈、手提夜業燈、整備燈	各種覆、各種要具箱内要具	空氣壓搾ポンプ(消火器用)、釣杵(各種)、葦秤、シヤス、雨水採取器、諸要具、各種要具箱内要具、信號布板	各種覆、各種要具箱内要具	各種覆、各種要具箱内要具	各種覆、各種要具箱内要具、諸要具、煙藥作業衣、劇藥用ゴム手袋、水平器、漏斗各種	各種覆、各種要具箱内要具、諸要具、煙藥作業衣、劇藥用ゴム手袋、水平器、漏斗各種	各種覆、各種要具箱内要具、諸要具、煙藥作業衣、劇藥用ゴム手袋、水平器、漏斗各種	脚立、機體調整索、車輪止、コンパス(機體調整用)、水平器、張線回、下振、アイ入器、足場、ネチ切要具、ピアノ線切、ピアノ線用工具、バネ換裝器、油注入器、ベンチ、ノギス、搜子、壺ネチ回、翼格納索、木ネチ回、翼索、手入油罐各種、發動機手入皿、鉄、折尺、管回、鐵付燈、要具袋、整備要具帶、鳩目ベンチ、ス、バナ各種、手槌、總(各種)、卷尺、兵器手入臺、發動機作業臺、點火檢除要具各種、帆布製各種覆、摺合要具、ゴム式起動器、齒車錐、敷布(落下傘折疊用)、曳航索	品目

(達第八四號別表第五號)

(昭和二十年五月一日祕海軍公報)

長 行 飛				主管別	艦船部隊ニ於テ直買シ得ル兵器
品 耗 消				區分	
第八類	第六類	第四類	第一類	類 別	目
帶酸蒸溜水	乾電池各種	航空廠整理兵器中ノ一般基地用兵器ノ消耗品	乾板、フィルム、印畫紙各種、乾電池各種	品	
航空廠ト隔在スル航空部隊	艦船部隊等	航空廠ト隔在スル航空部隊	艦船部隊等		

1770

457203 460 皇軍海軍

豫備學生豫備生徒別專修班別トシ各二通（別紙様式参照）

二 不登載者名簿ノ調製

(イ) 六月一日附任用若ハ採用不適ト認ムル者アルトキハ罷免豫定、次期編入豫定及修業延期豫定別トシ其ノ事由（修業延期ニ對シテハ延長期間）ヲ附記スルモノトス

(ロ) 調製期日、進達期限前號ニ同シ

三 候補名簿調製期日以後異動ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ附シ其ノ都度速ニ電報スルモノトス

四 候補名簿ニ登載シタル者ニシテ其ノ所轄ヲ變更シタルモノアルトキハ舊所轄長ヨリ新所轄長ニ速ニ移牒スルモノトス

五 任用、採用候補名簿ニ登載セザル者ノ中罷免ヲ要スルモノハ成ルベク速ニ又次期編入若ハ修業延期ヲ要スル者ニ付テハ五月末日迄ニ上申認許ヲ受クルモノトス

（別紙添）

軍需二機密第四八五號
昭和二十年四月三十日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料材料品ノ品種竝ニ使用區分ニ關スル件通牒

燃料經理規程別表第二中混含材料及製造材料ノ品種竝ニ使用區分ヲ左記ノ通定メラレ候

祕海軍公報 第四九九九號 昭和二十年五月二日

製				料				材				合				混				品	
切	生	砂	松	二	一	亞	乳	エ	イ	ネ	エ	一	一	航	航	略	種	記	號	使	
干	糖	根	油	號	號	砒	化	ー	ン	オ	チ	號	號	空	空		種	號	號	用	
薩	糖	糖	油	號	號	酸	防	テ	オ	キ	ル	メ	メ	八	九						
				降	降	曹	蝕	ル	ク	サ	フ	タ	タ	七	一						
				劑	劑	遠	油	テ	タ	ン	ル	タ	タ	原	原						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	料	料						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	發	發						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	油	油						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	混	混						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	合	合						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	用	用						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	分	分						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	區	區						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	分	分						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	別	別						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	類	類						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	別	別						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	紙	紙						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	樣	樣						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	式	式						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	參	參						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	照	照						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	用	用						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	別	別						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	紙	紙						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	樣	樣						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	式	式						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	參	參						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	照	照						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	用	用						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	別	別						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	紙	紙						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	樣	樣						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	式	式						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	參	參						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	照	照						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	用	用						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	別	別						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	紙	紙						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	樣	樣						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	式	式						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	參	參						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	照	照						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	用	用						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	別	別						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	紙	紙						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	樣	樣						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	式	式						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	參	參						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	照	照						
				劑	劑		油	ル	ン	ン	ル	タ	タ	用	用						

1771

造			材						料	
馬鈴薯	雜穀	澱粉類	アタノール	動物油脂	植物油脂	生ゴム	一號ベンゾール	二號ベンゾール	アセトン	硝
							一ベン	二ベン	アセトン	
							Be1	Be2	Ae	
造用			「イソオクタン」 製造用	潤滑油製造用	潤滑油製造用	航空揮發油及潤滑油製造用	「アルコール」脱 水用	潤滑油製造用	木炭製造用	

軍需糧第二六號

昭和二十年五月一日

海軍省軍需局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長 殿

海軍軍需米ノ特別配給措置ニ關スル件申改正
ノ件通知

昭和十九年軍需糧第一四六號別紙第一中第一號ニ左記ノ追加
政候

記

但シ必要ニ應ジ海軍經理部(同支部ヲ含ム)ニ於テ所在各所轄
ノ分ヲ取網メ一括發給スルコトヲ得

經給機密第五三號

昭和二十年四月二十八日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

戰役工員ノ特別進級並ニ特別昇級ノ件外一件
申改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一五四號別紙官房經第六七九號及同經給第二
〇三號中「アツツ」「タラツ」「マキン」「クエゼリン」「ル
オツト」「ニユーギニヤ」島(附近諸島ヲ含ム)「ソロモン」
諸島及「マリアナ」諸島」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改メ昭和十
九年十二月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 昭和十九年經給第二五號 昭和十九年八月二十六日秘海軍公報
經給第二〇三號 海軍機密會計法規類集一二六頁

經給第七八號

昭和二十年五月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

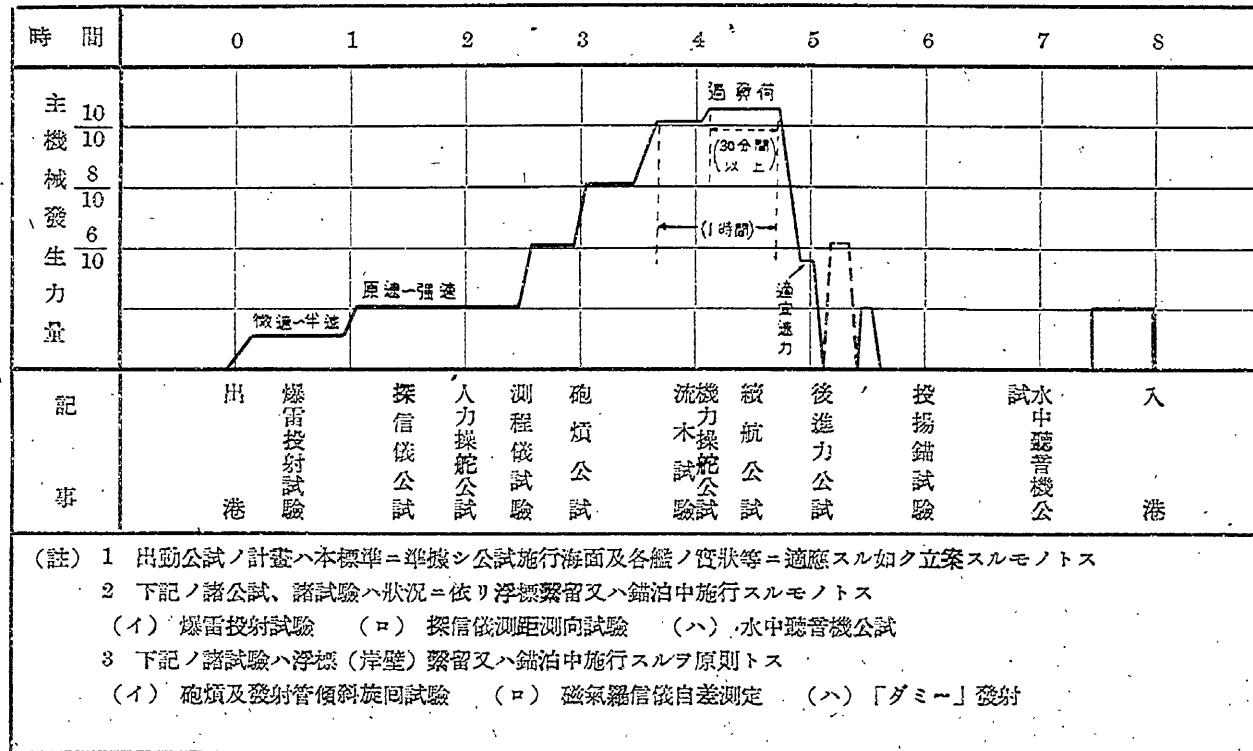
工員定期一般昇給ニ關スル件通牒

(艦本機密第一一號ノ四九一四別表)

(昭和二十年五月二日秘海軍公報)

(別表第一)

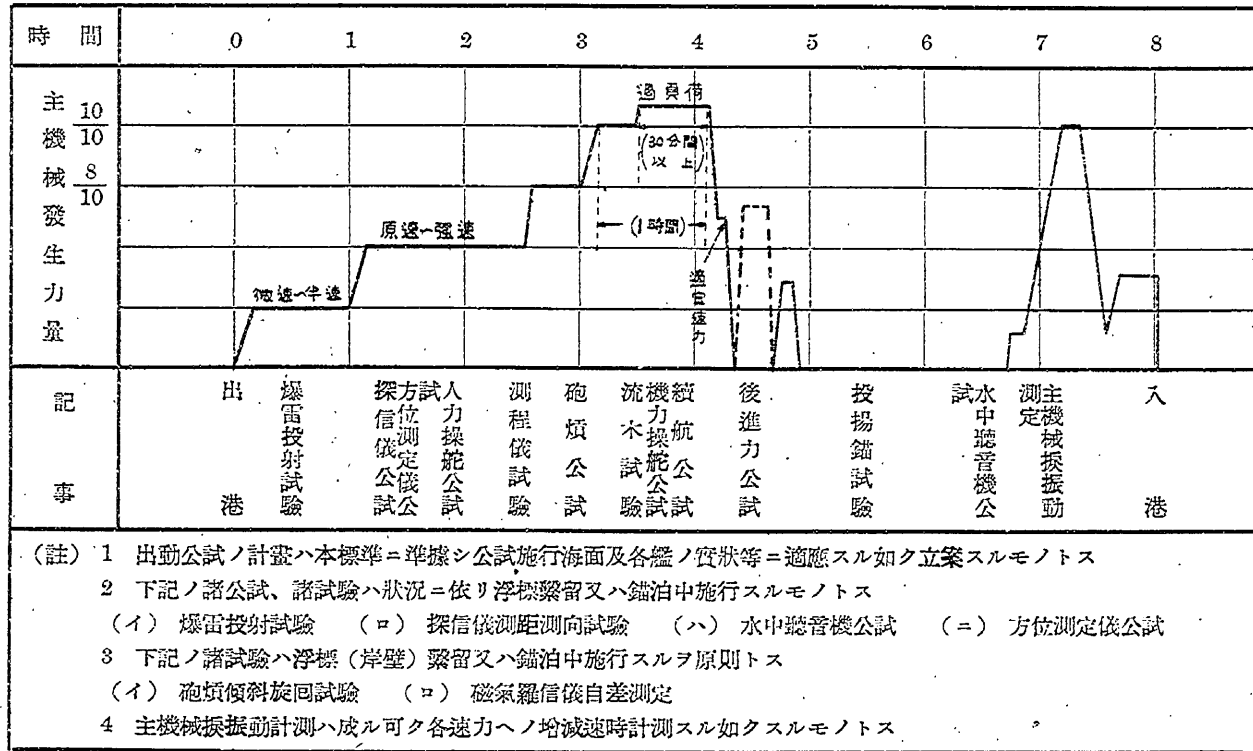
出動公試實施標準 (驅逐艦 (丁), 海防艦 (丁), 輸送艦)



1773

(別表第二)

出動公試實施標準〔海防艦(甲)(丙)〕



1774

(海人三機密第二三號ノ二別紙)

(昭和二十年五月二日秘海軍公報)

第何期何專修
(豫備學生)(何班)

(採用) 候補名簿 (何 名)

候補	基礎教程及術	本籍地	最終出身學校、 學部、學科及同 卒業年月日	進級令第九條ノ除 算事項及其ノ日數	氏名
順序	科教程得點	(都道府縣 ノミ記載)	昭和十九年九 月ニ於テ在學 シアリシ年ハ 其ノ在學年ハ		生年月日

(註) 基礎教程及術科教程得點欄ノ記註ヲ要スルハ艦艇、陸戰、對空及化兵班ノミトス

1775



海軍公報

第五〇〇〇號

昭和二十年五月三日(木)

海軍大臣官房

〇令 達

達第八六號

燃料經理規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月三十日

海軍大臣

別表第一中呂號乙藥ノ部ヲ左ノ如ク改ム

藥		乙		號		呂	
蒸氣發生觸媒	口七劑	呂號乙藥三號乙液	口三號乙液	呂號乙藥二號乙液	口二號乙液	呂號乙藥一號乙液	口一號乙液
分解促進劑	口カ劑	呂號乙藥丁液	口丁液	呂號乙藥甲原液	口甲原液	呂號乙藥二號甲液	口二號甲液
⓪	⓪	⓪	⓪	⓪	⓪	⓪	⓪
S	K	D	B ₃	B ₂	B ₁	A _G	A ₂
※							特殊用
							一般用

(參照) 會計法規類集四卷二五三頁

達第八七號

航空被服味方識別標識附著規程左ノ通定ム

秘海軍公報 第五〇〇〇號 昭和二十年五月三日

昭和二十年四月三十日

海軍大臣

航空被服味方識別標識附著規程

第一條 大東亞戰爭中海軍軍人軍屬航空被服及落下傘帶ヲ著用スル場合ニハ本規定ニ依リ航空被服味方識別標識ヲ附スルモノトス

第二條 第一搭乗配置又ハ第二搭乗配置ニ在ル軍人航空被服及落下傘帶ヲ著用スル場合ニハ別圖様式ニ依リ之ニ標識ヲ附スベシ

第三條 軍人ニシテ搭乗配置ニ在ラザルモノ又ハ軍屬航空被服及落下傘帶ヲ著用スル場合ニ於テ必要アルトキハ前條ノ規定ニ準ジ標識ヲ附スルコトヲ得

第四條 航空被服味方識別標識ノ制式ハ士官、候補生、見習尉官、准士官、下士官及兵ヲ通ジ同一トス

(別圖添)

達第八八號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ潜水艦四隻ニ左ノ通命名ス

昭和二十年五月一日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

四六五

1776

波號第二百三潛水艦
波號第二百四潛水艦
波號第二百五潛水艦
川崎重工業株式會社ニ於テ建造
波號第二百六潛水艦

達第八九號

戰時海軍工員規則中左ノ通改正ス

昭和二十年五月一日

海軍大臣

附表第三號中「又ハ三十分毎ニ給料二十分ノ一相當額以內」ヲ削ル

内令第三五一號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「京城」ノ上ニ「名古屋」ヲ加フ

(内令提要卷一、一八ノ六頁參照)

内令第三五二號

特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正ス

セラル

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

聯合艦隊 第三海軍補充部

聯合艦隊 第四海軍補充部

第十方面艦隊 第三海軍補充部

第十方面艦隊 第四海軍補充部

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ六〇頁參照)

内令第三五三號

艦艇防備隊潛水艦基地隊航空隊現狀報告規則中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

第一條第二項中「驅逐艦」ノ下ニ「砲艦、海防艦、輸送艦」ヲ加ヘ「及驅潛艇」ヲ「驅潛艇、敷設艇及哨戒艇」ニ改ム

第二條中「潛水隊」ノ下ニ「砲艦隊、海防隊、輸送隊」ヲ「潛水艦」ノ下ニ「砲艦、海防艦、輸送艦」ヲ「驅潛艇」ノ下ニ「敷設艇、哨戒艇」ヲ加フ

第七條中「監督官、監督官」ヲ「特設運送船ニ在リテハ指揮官、指揮官」ニ改メ「特設航空隊」ノ下ニ「(鎮守府、警備府、艦隊、

戰隊又ハ根據地隊ニ附屬スル特設飛行隊ヲ含ム)」ヲ加フ

第五表中現役務及兵力ノ項ノ記註例ヲ削リ飛行機ノ部ヲ左ノ如ク改ム

1777

考 備	機 行 飛										名 稱	型 式	定 數	現 數	現 數 内 詳 其 他 機 數	翌 月 更 新 機 數	記 事
	ラ	ペ	ロ	プ	機	動	機	機	機	機							
一 定數外供給、貸與、保管機等ハ貸與部隊又ハ司令部 名ヲ明記ス																	
二 發動機及プロペラハ機体ニ搭載中ノモノモ之ヲ記入ス																	
三 其ノ他ノ現數内詳ハ整備中又ハ要修理ノモノ等ヲ記 入ス																	

同表搭乗員ノ部中機種ノ記註例ヲ削ル

(内令提要卷二、一五七頁参照)

官房經第二四二號

昭和十六年七月二日ヨリ同十七年五月一日迄ノ間ニ見習工員ヲ
成業シタル工員及昭和十七年五月二日以降見習工員ヲ成業シ戰
時海軍工員規則第九十四條第二項ニ該當スル工員ニ對スル誓約
賞與ハ七十一日分トシ左記ニ依リ之ヲ支給スベシ但シ廳長ハ必
要ニ應ジ適宜減額支給スルコトヲ得

昭和二十年五月一日

海 軍 大 臣

記

一 本賞與ハ誓約期間満了ニ依リ昇級シタルトキノ給料ニ依リ
本年五月中ニ之ヲ支給ス

二 誓約期間満了ノトキ海陸軍ニ徵集又ハ召集中ノ者ニ對シテ
ハ誓約期間満了ニ依リ昇級シタルトキノ給料ニ依リ復歸ノ際
之ヲ支給ス

三 誓約期間満了ニ至ラズシテ戰死シ又ハ業務上ノ傷痕若ハ疾
病ニ因リ死亡シタル者ニ在リテハ戰死又ハ死亡ノ際其ノ受ク
ベキ給料ニ依リ之ヲ支給ス

官房需機密第一四七號

艦營需品定額表中數量左ノ通改正ス

昭和二十年五月二日

海軍大臣

機關長主替

艦名	區別	類別及番號	備品		記事
			一一ノ二ホ	一一ノ三	
自第百四十五號	八	寒暖計	個	寒暖計保護筒	個
至第百四十五號	八	寒暖計	個	寒暖計保護筒	個

○通牒

官房軍第二一八號
昭和二十年五月二日

海軍省副官

各廳長殿
航空公用軍事郵便物（急送扱ヲ含ム）ノ差出
制限ニ關スル件申進
最近ノ輸送狀況ニ鑑ミ當分ノ間海南島以遠宛航空公用軍事郵便物（急送扱ヲ含ム）ノ差出ハ緊急已ムヲ得ザルモノニ限ル様取計相成度

軍需二機密第四七二號
昭和二十年四月三十日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

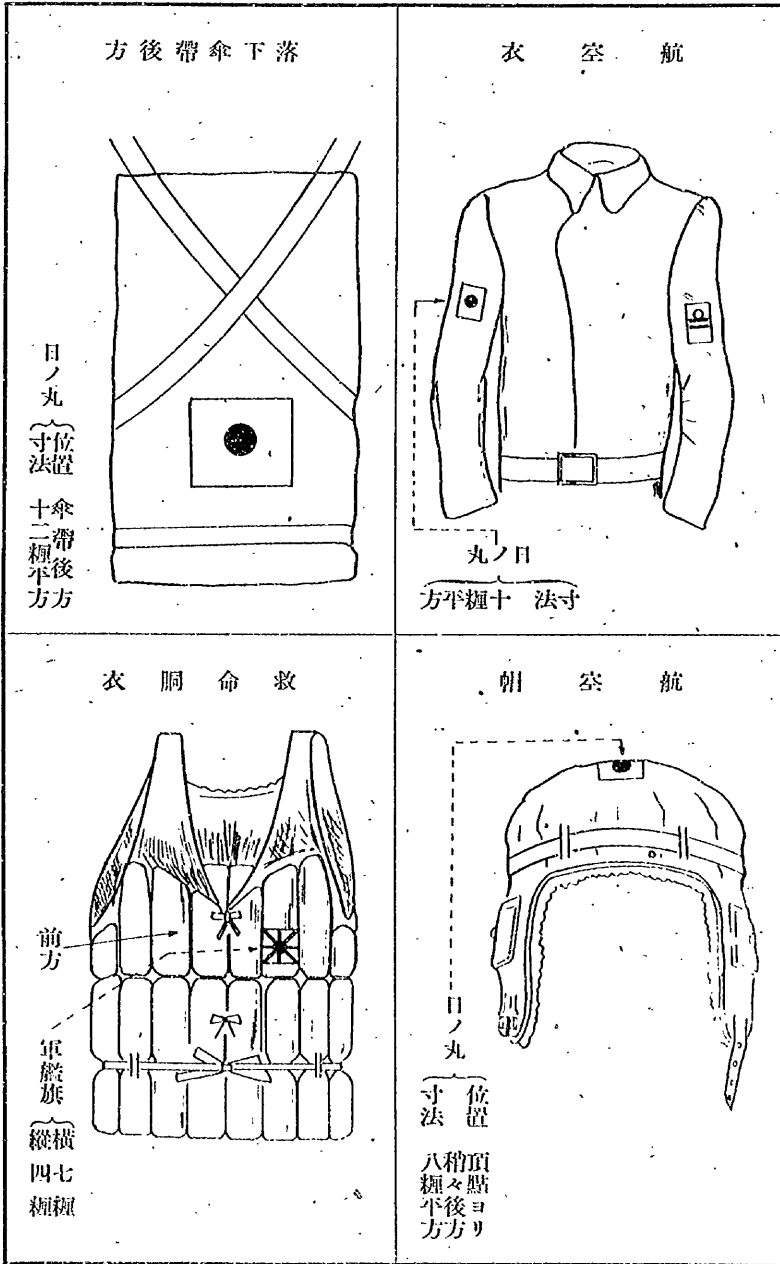
昌號乙藥ニ關スル件通牒
今般達第八六號ヲ以テ品名制定相成候昌號乙藥二號乙液ハ昌號乙藥一號乙液ニ燃料ヲ又昌號乙藥三號乙液ハ昌號乙藥二號乙液ニ分解促進劑ヲ混合セルモノニ有之候

○雜款

○廳舎移轉

官衙名	移轉先	移轉月日	記事
高雄海軍經理部 臺北出張所	臺北市四山町一 四七（海洋訓練 隊跡）	三月二日	
東京海軍監督官 事務所横濱出張 所浦賀分室	横須賀市芝生字 細田一九番地	四月二六日	

(達第八七號別圖)



備考
一 本標識ニハ布地ヲ用フルモノトス但シ航空救命胴衣ニ附スル標識ハ布地ニ代フルニ塗料ヲ用フルコトヲ得
二 本標識ノ寸法ハ適宜之ヲ伸縮スルコトヲ得

(昭和二十年五月三日祕海軍公報)



海軍公報

第五〇〇一號

昭和二十年五月四日(金)

海軍大臣官房

○令 達

達第九二號

昭和二十年五月一日

昭和二十年五月一日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

波號第二百七潜水艦

波號第二百八潜水艦

内令第三三八號ノ二

第二百號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

第二百號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

官房機密第二七三號

海軍戰時特例給與規則申左ノ通改正ス

昭和二十年五月二日

秘海軍公報 第五〇〇一號 昭和二十年五月四日

海軍大臣

1781

第一條ノ四第一項中「死亡シタルトキ」ノ下ニ「又ハ此等以外ノ者公務ニ起因シ死亡シタルトキ」ヲ加フ

第二條ノ三第一項中「以下之ニ同ジ」ヲ「以下特ニ記事ナキモノ之ニ同ジ」ニ改ム

第二條ノ八中「(海軍給與令第四十四條ノ二ノ規定ニ依リ加給セラルル分及同令第九表備考ノ規定ニ依リ増給セラルル分ヲ除ク)」ヲ削ル

第三條ノ二第六號中「本邦」ノ下ニ「(戦地及準戦地タル地域ヲ含ム)」ヲ加フ

第八條ノ二中「各規定食料」ノ下ニ「(准士官室ノ設備ナキ艦船部隊ニ在リテハ士官室ノ額)」ヲ加フ

第八條ノ三 艦船部隊學校及病院ニ在ル下士官兵ニシテ服務車后九時以後ニ及ブトキハ海軍給與令施行細則第十九表ノ四ノ規定ニ拘ラス夜食ノ給與ニ代ヘ一食ニ付三十錢ノ夜食料ヲ支給スルコトヲ得

第十條ヲ削リ第十條ノ二ヲ第十條トシ第十條ノ三ヲ第十條ノ四トス

第十條ノ二 派遣手當ノ支給ヲ受ケタル者其ノ事由發生後二年ヲ經過シ再ビ前條ノ規定ニ該當スルトキハ更ニ同條ノ派遣手

四六九

當ヲ支給ス

第十條ノ三 派遣手當ノ支給ヲ受クベキ者ニハ支度手當及旅費トシテ支給ヲ受クベキ支度料ハ支テ支給セズ

第十二條中「准士官以上、候補生、見習尉官及軍屬（海軍徴備船員ヲ除ク）ニシテ戰地若ハ準戰地ニ在ルモノ、派遣セラレルモノ若ハ一時往復スルモノ又ハ戰地ニ在ラザルモノ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ルモノ」ヲ「軍人軍屬（應徴船員ヲ除ク）」ニ改ム

第二十二條中「軍屬」ノ下ニ「及豫備員候補者」ヲ加ヘ「及見習尉官」ヲ「見習尉官、豫備學生及豫備生徒」ニ「及兵」ヲ「兵、豫備練習生及豫備補習生」ニ改ム

第一欄	第二欄	第三欄
第二表ニ定ムル各科少將ノ額	各科少佐ノ額	特務士官タル各科少尉ノ額
同	同	同
同	准士官ノ額	同
十四錢	二十錢	二十八錢
十一錢	十五錢	二十一錢
九錢	十二錢	十七錢
五錢	六錢	九錢

第一欄	第二欄	第三欄
第二表ニ定ムル各科少將ノ額	各科少佐ノ額	特務士官タル各科少尉ノ額
同	同	同
同	准士官ノ額	同
十四錢	二十錢	同
十一錢	十五錢	同
九錢	十二錢	同
五錢	六錢	同

但シ各料ノ十分ノ七
但シ月額四十圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十二ヲ超エザル範圍ニ於テ四分ノ十圓迄ヲ支給スルコトヲ得

但シ各料ノ十分ノ四
但シ各料少將ノ航海加俸ノ額ヨリ少キトキハ各料少將ノ航海加俸ノ額

但シ各料少佐ノ航海加俸ノ額ヨリ少キトキハ各料少佐ノ航海加俸ノ額

但シ各料少尉ノ航海加俸ノ額ヨリ少キトキハ各料少尉ノ航海加俸ノ額

但シ特務士官タル各科少尉ノ航海加俸ノ額ヨリ少キトキハ特務士官タル各科少尉ノ航海加俸ノ額

但シ准士官ノ航海加俸ノ額ヨリ少キトキハ准士官ノ航海加俸ノ額

ニ、同備考中「乃至第三欄」ヲ「及第二欄」ニ改メ「臺灣」ヲ削ル

第二表ノ四、第三表ノイ及同ロ中

准士官ノ額

見習尉官ノ額

候補生ノ額

ニ改ム

第四表中「特務士官」ノ下ニ「候補生、見習尉官」ヲ加フ

第四表ノ五備考第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

二 戰地又ハ準戰地ニ一時往復スベキ者ノ派遣手當ハ本表金額ノ半額トス

前項ニ依リ派遣手當ノ支給ヲ受ケタル者出張先ニ於テ更ニ派遣ノ命ヲ受ケタルキハ尙半額ヲ差繼支給ス

三 派遣手當ノ支給ヲ受クベキ者出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ免セラレタルトキハ其ノ受クベカリシ派遣手當ノ半額ヲ支給ス但シ既ニ支給ヲ受ケタル後死亡シタルトキハ其ノ差額ヲ追徴セザルコトヲ得

四 一時往復シ又ハ官ノ都合ニ依リ出發ヲ取止メラレ半額ノ支給ヲ受ケタル者更ニ派遣手當ヲ受クベキ資格發生シタルトキハ其ノ差額ヲ差繼支給ス

前項ノ場合ニ於テ派遣手當ノ基礎額ニ異動ヲ生ジタル者ニ付テハ現在ノ官等ニ付定メタル額ト比較シ之ヲ定ム

五 派遣手當ヲ受クベキ者其ノ事由發生前一年以内ニ旅費トシテ支度料ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ派遣手當ハ本表金額ノ半額トス但シ支度料ト合セテ本表ノ金額ニ滿タザルトキハ本表ノ金額ニ達スル迄ノ額トス

第六表備考第一號中「十一月ヨリ翌年三月ニ至ル期間ニ於テ午前八時三十分以前執務ヲ開始スル應ニ在リテハ午後五時三十分」ヲ「時差出勤等ニ依リ大正十一年閣令第六號ニ依ル執務開始時刻ヨリ三十分以上繰上テ執務ヲ開始スル應ニ在リテハ執務午後五時三十分本表ニ於テ以下之ニ同ジ」ニ改メ第三號中「十一月ヨリ翌年三月ニ至ル期間ニ於テ午前八時三十分以前ニ執務ヲ開始スル應ニ在リテハ午後五時三十分」及第六號ヲ削ル

秘海軍公報 第五〇〇一號 昭和二十年五月四日

附則

本令ハ昭和二十年五月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第十二條ノ改正規定ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與、第四表ノ五ノ改正規定ハ昭和二十年三月一日以後ノ給與、第六表ノ改正規定ハ昭和二十年四月一日以後ノ給與ニ付夫々之ヲ適用ス

○ 遺 牒

軍務一機密第二六二號

昭和二十年四月九日

海軍省軍務局長

各鎮守府、警備府參謀長
各海軍監 督 長 殿

艦船(潜水艦ヲ除ク) 諸公試諸試驗一部省略
ニ關スル件申進

昭和十八年官房機密第一三四五號中當分ノ別紙ノ通更ニ簡略實施シ差支ナキ内意ニ付可然取計相成度

(別紙)

艦船(潜水艦ヲ除ク) 諸公試諸試驗一部省略
ノ件

艦船造修規則ノ部

第三號ハ豫行運轉ヲ左ノ通トス

第一百十二條第二號豫行運轉ハ同型第二艦以降ニ在リテハ之ヲ省略シ又豫行運轉ヲ實施スル場合標柱間公試ハ之ヲ省略シ或ハ豫行運轉中ノ機關ノ狀況ニ依リテハ之ヲ運轉公試トシ引續

四七一

キ續航公試ヲ施行スルコトヲ得

第三號(ハ)終末運轉公試表記事第二號ヲ左ノ通トス

二 同型第二艦以降ニ於テ終末運轉公試ヲ實施スル場合標柱

間公試ハ之ヲ省略ス

第四號惰力公試(ロ)ヲ左ノ通トス

(ロ) 第二百二十三條乙法ハ之ヲ省略ス

第八號操舵公試(イ)(四)ヲ左ノ通トス

(四) 同型第二艦以降ニ在リテハ二次電源ニ依ル機力操舵公試

及人力應急操舵公試ハ之ヲ省略シ適宜ノ速力ニテ作動試験

ヲ施行スルモノトス

第九號投揚錨公試(イ)(四)ヲ左ノ通トス

(四) 同型第二艦以降ニ在リテハ投揚錨公試ヲ省略ス

但シ公試施行海面附近ノ成ル可ク深キ水深ニ於テ投揚錨關

聯裝置ノ作動試験ヲ施行スルモノトス

兵器造修規則ノ部

第一號砲類兵裝公試(ハ)(二)發射法ヲ左ノ通トス

方位盤射擊裝置ヲ有スルモノニ在リテハ之ヲ使用シ碇泊中又

ハ適宜ノ速力ニ於テ緩徐ナル保續照準ニ依ル一齊打方トス

方位盤射擊裝置ヲ有セサルモノニ在リテハ碇泊中又ハ適宜ノ

速力ニ於テ方位發射ノ要領ニ依ル一齊打方トス

第一號砲類兵裝公試(ヘ)ノ次ニ左ヲ追加ス

(ト) 同型第二艦以降ニ在リテハ第六十六條第三號(ロ)傾斜

旋回試験ハ碇泊中「バラスト」及重量物ノ搭載移動等ニ依

リ可能ナル最大傾斜範圍内ニテ片舷傾斜ニ對シ施行スルモ

ノトス

第四號魚雷兵裝公試(イ)發射管公試(一)ヲ左ノ通トス

同型第二艦以降ニ在リテハ第七十八條第一號(イ)旋回試験ハ碇

泊中「バラスト」及重量物ノ搭載移動等ニ依リ可能ナル最大

傾斜範圍内ニテ片舷傾斜ニ對シ施行スルモノトス

第五號「機雷兵裝公試及掃海兵裝公試」ヲ「機雷兵裝公試、掃

海兵裝公試及對潛兵裝公試」トシ(ニ)ノ次ニ左ヲ追加ス

(ホ) 第八十八條第三號發射試驗(イ)、(ロ)ヲ左ノ通トス

(イ) 單裝發射機

發射管	發射機	種類ノ	種類ノ	發射回数
適宜	一齊射 (兩舷相對ノモ) 二ノ二基宛 立狀ニ依リ獨	單裝用	擬製機雷	各機一回

(ロ) 聯裝發射機

發射管	發射機	種類ノ	種類ノ	發射回数
適宜	一各機獨立齊射	聯裝用	擬製機雷	各機一回

第六號音響兵裝公試(イ)探信儀公試ヲ左ノ通トス

(一) 第九十三條第二號測距測向試驗中測定艦ノ速力ヲ「原速

又ハ適宜」トス

(二) 第九十三條第三號雜音測定試驗中速力ヲ「漂泊(碇泊)及

原速(又ハ適宜)」トス

第六號音響兵裝公試(ハ)ヲ左ノ通トス

(ハ) 第九十四條ノ三第一號誤差試験(ロ)ヲ左ノ通トス
適宜ノ速力ニテ航走中連續約二時間測深ヲ行ヒ海圖ト比
較シ誤差ヲ檢ス

第七號航海兵裝公試(イ)羅信儀公試(二)及(九)ヲ夫々左ノ通トス
(二) 第九十六條羅針儀公試甲磁氣羅針儀第二號自差測定ハ碇
泊中之ヲ施行スルモノトス

(九) 第九十六條羅針儀公試乙轉輪羅針儀第四號誤差試験ハ兵
裝試験トシ適宜ノ針路、速力ニテ航行中誤差ヲ測定ス
第七號航海兵裝公試(ハ)山川燈公試ヲ左ノ通トス
第七號航海兵裝公試(イ)發電機械及發電機公試(二)ノ(一)ヲ左ノ通ト
ス

第九號電氣兵裝公試(イ)發電機械及發電機公試(二)ノ(一)ヲ左ノ通ト
ス

(1) 力量試験ハ全負荷運轉一時間ニ引續キ規程過負荷ニテ十
五分間連續運轉シ何レモ最大排氣壓力運轉ヲ省略ス
但シ界磁電流、同電壓及溫度上昇ノ計測ハ之ヲ施行セズ絶
緣抵抗ハ全體ト船體間ヲ計測スルモノトシ所定ノ計測ハ過
負荷運轉終了後速ニ行フモノトス

第九號電氣兵裝公試(イ)發電機械及發電機公試(六)ノ(1)ヲ左ノ通ト
ス

(1) 力量試験ハ全負荷運轉一時間ニ引續キ規程過負荷ニテ十
五分間連續運轉シ尙特定用途ニシテ使用スルモノニ在リテ
ハ其ノ關聯裝置ノ公試又ハ試驗施行ノ際適宜實用試驗ヲ行
フモノトス但シ界磁電流及溫度上昇ノ計測ハ之ヲ施行セズ
絶緣抵抗ハ全體ト船體間ヲ計測スルモノトシ電動交流發電

機ノ試験ハ負荷力率一ニテ施行スルコトヲ得

軍務三機密第四〇七號
昭和二十年五月三日

昭和三十二年五月三日

關係各廳長殿
海軍省軍務局長

昭和二十年年度蔬菜類ノ取得ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シ左記ノ通農商次官ヨリ海軍次官宛申進有之候條
可然取計相成度
追テ海軍軍需部ニ於ケル補給用蔬菜類ノ取得ニ關シテハ軍需
局ヨリ別途關係各部ニ通知済

記

内地所在部隊、軍官衙及軍作業廳等方青果物類ヲ直接産地ヨリ
調辦スルコトハ軍需青果物類ノ供出上ニモ支障尠カラザルヲ以
テ

(一) 之等ノ需要者ノ需要ハ原則トシテ其ノ所在地都道府縣内
ニ於テ調辦セシムルコト此ノ場合必ズ其ノ所在地地方長官
ト打合ノ上調辦セシムルコトトシ直接産地調辦ヲ爲サシメ
ザルコト

(二) 之等ノ需要者方農商大臣ノ指定消費地域内ニ所在スル場
合ハ當該地域ノ指定荷受機關ヨリ調辦セシムルコト

(三) 之等ノ需要者方所在都道府縣内ニ於テ調辦スルモ尙不足
甚シキ場合ハ海軍省ニ於テ夫々取纏メ農商省ニ打合セテ爲
スコト

軍需機密第二九六號

昭和二十年四月二十八日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航海長主管消耗品「ガーズ」代用櫻「セーム」

革供給ニ關スル件 中品名改正ニ關スル件 通牒

客年九月十九日附軍需機密第五六〇號通牒首題櫻「セーム」

革ハ自今「富士特殊膜」ニ品名改正致候條了知相成度

(昭和十九年九月十九日秘海軍公報第四八〇四號參照)

艦本機密第一號ノ五三二一

昭和二十年四月二十日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、佐世保、舞鶴、大湊、鎮海、大阪 海軍軍需部長殿

二十五耗機銃照準演習機供給ニ關スル件照會

(砲衛長主管)

首題ノ件註文品納庫次第左記ニ依リ請求ヲ俟テ供給ノコトニ取計相成度

記

一 供給兵器

九六式二十五耗機銃照準演習機

二 供給先及數量

艦船、艇及陸上部隊現有二十五耗機銃十挺ニ付一組ノ割合

○雜 款

(備考) 横須賀、館山各砲術學校、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍警備隊ニ對シテハ別途供給セラル

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記 事
攻撃第四〇六飛行隊 (第七六二海軍航空隊所屬)	鳥取縣西伯郡美保航空基地 敷付テ一三八	四月一六日		四月一六日 上記ノ場所 ニ基地ヲ移 動セリ
波號第二〇一、第二〇二、第二〇三 潜水艦艇員事務所	佐世保海軍工廠内	四月九日		
第三一四設營隊	吳海軍施設部内	四月三日		

○本日軍械秘海軍公報第一二三號及同第二二四號(孰モ乙配付)發行セリ

第一二三號配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、吳海軍工廠、高雄海軍警備隊、關係各警備隊、大島防備隊、川棚突擊隊、關係各學校

第一二四號配付先

各司令部、各海軍經理部、海軍水雷學校

秘

第. 5. 5

海軍公報 第五〇〇二號

昭和二十年五月五日(土)
海軍大臣官房

○令 達

内令第三五四號(軍機秘海軍公報第一二五號(乙配付)ニ掲載)

内令第三五五號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

第四十三驅逐隊ノ項中「桐」ノ下ニ「葛」ヲ加フ

第五十二驅逐隊ノ項中「樫」ノ下ニ「楡」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第三五六號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

第一海防隊ノ項中「第三十九號」ノ下ニ「六」、第七十二號、第七十六號」ヲ加フ

第十一海防隊ノ項中「第三十六號、」ノ下ニ「第五十五號、第五十七號、」ヲ加フ

第十二海防隊ノ項中「第十四號」ノ上ニ「久賀、稻木、」ヲ加フ

第二十一海防隊ノ項中「干珠、」ヲ削ル

第二十二海防隊ノ項中「第八號」ノ上ニ「鶴來、大東、竹生、

崎戸、對馬、」ヲ加フ
第三十一海防隊ノ項中「沖繩、第六十一號、第六十三號、第二百七號」ヲ「沖繩、粟國、第二十二號、第二十六號、第六十三號、第八十一號、第二百七號」ニ改ム

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第三五七號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

「詫間海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第三五八號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正

ス

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

美保航空基地

美保航空基地

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

ニ改ム

秘海軍公報 第五〇〇二號 昭和二十年五月五日

四七五

1787

内令第三五九號
昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件申
左ノ通改正ス
昭和二十年四月二十五日
海軍大臣

「詫間海軍航空隊」ヲ削ル
(内令提要卷一、三〇ノ四五頁参照)
海軍大臣

内令第三六〇號
本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メラル
第二十二號輸送艦
第二十一號輸送艦
昭和二十年四月二十五日
海軍大臣

官房經第二六五號
左ノ各號ニ依リ新任監査官附ニ對シ監査實務臨時講習ヲ施行ス
關係各監査長ハ第三號該當ノ講習員ヲ講習開始ノ前日迄ニ海軍
經理學校築地分校ニ派遣スベシ
昭和二十年五月五日
海軍大臣

一 目的
監査官附トシテ職務遂行上必要ナル監査實務ノ基礎智識ヲ確
實ニ修得セシムルニ在リ
二 指導官及輔佐官
指導官 海軍經理學校長

輔佐官 海軍經理學校教官
同 海軍省經理局職員

三 講習員
本年三月及四月中新ニ監査官附ヲ命ゼラレタル主計大尉及主
計少尉

四 講習場所及講習期間
講習場所 海軍經理學校築地分校
講習期間 自五月二十一日(月)
至五月二十六日(土)

五 講習項目及實施細目
(イ) 講習項目
海軍監査關係諸法規ノ解説及其ノ運用要領並ニ之ニ關聯ス
ル監査實務
(ロ) 實施細目
指導官ノ定ムル所ニ依ル

六 其ノ他
(イ) 講習員ノ旅費ハ既配付豫算内支辨トス
(ロ) 講習中講習員ハ海軍經理學校内ニ起臥セシム

○ 雜 款
○ 本日軍極秘海軍公報第二二五號(乙配付)發行セリ
配付先
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、
同支廠

○ 本日海軍公報發行セズ

秘

20.5.6

海軍公報 第五〇〇三號

昭和二十年五月六日(日) 海軍大臣官房

○令 達

達第九一號

大東亞戰爭中略式飾緒ハ海軍服裝令施行細則第三條ノ三第一項ノ規定ニ拘ラス宮中ニ於ケル儀式ノ場合ヲ除クノ外飾緒ニ代ヘ常時之ヲ佩用スルコトヲ得

昭和二十年五月一日

海軍大臣

官房艦機密第一二五一號

昭和十八年官房艦機密第一三四五號別冊中左ノ通改正ス

昭和二十年五月五日

海軍大臣

艦船造修規則ノ部第三號(二)續航公試(六)表中「主電動機ノ定格時間」ヲ「十五分間」ニ改ム

(参照) 昭和十八年官房艦機密第一三四五號ハ大東亞戰爭中艦船造修規則及兵器造修規則ニ依ル諸公試、諸試驗中一部省略實施要領ニ關スル件ナリ

(戰時特令艦政關係造修執務便覽 一一五七頁)

○選 牒

軍需機密第一〇號ノ七

昭和二十年五月五日

關係各廳長殿

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

松根乾溜用諸器具及松根原油處理等ニ關スル改正ノ件通知

軍需機密第二一〇號ニ依ル首題ノ件左記ノ通改正セラレ候

記

一 第一號別表中「關東、東北」ヲ「關東信越、東北、北海道方」ニ、「本會」ヲ「東海北陸、近畿地方」ニ、「中國四國」ヲ「中國、四國地方」ニ改メ第三海軍燃料廠ノ次ニ

九州地方 第四海軍燃料廠」ヲ、末尾ニ

「臺灣 第六海軍燃料廠」ヲ加フ

二 第二號ヲ左ノ通改ム

海軍用地外ノ松根ヲ購入セル場合ハ昭和十九年十一月九日農商省物價局長及山林局長ヨリ地方長官宛通牒一九物八三五三號(所要ノ向ニ別ニ送付ス)ノ價格ニ依ルモノトス但シ朝鮮及臺灣ヲ除ク

三 (備考)ヲ左ノ通改ム

松根等ノ運搬ニ要スル諸費用ハ第二號松根購入價格ニ包含セシムルモノトス

(参照) 昭和二十年四月二日秘海軍公報

秘海軍公報 第五〇〇三號 昭和二十年五月六日

四七七

1789

○難 款

○司令潜水艦變更
第三十三潜水隊司令八四月二十日司令潜水艦ヲ伊號第百五十五潜水艦ニ變更セリ

○主計長申繼研究資料送付方取止ノ件
從來主計長交代時ノ申繼事項ヲ當部研究資料トシテ送付相受居候處當初ノ目的モ概ネ達成セラレシ今日事務簡捷上之ヲ省略スルコトト致度ニ付可然諒承ヲ得度
追テ戰力増強上有意義ナル資料ハ右ニ不拘從來通可成多數送付相成度
(海軍經理學校副官)

○學校管理
館山海軍砲術學校ハ横須賀海軍砲術學校長之ヲ管理シ同校ニ館山派遣隊ヲ駐屯セシメ教育並ニ訓練諸作業等ヲ左記ノ通貨施可致ニ付關係事項ニ關シテハ別ニ寫ヲ同校派遣隊ニ送付相成度
記

一 第六期(第二次)一般兵科豫備學生教育(五月十日教育開始豫定)
二 館山海軍砲術學校所管ノ地區、宿舍及兵器等ノ管理ニ關スル事項
三 館山海軍砲術學校所管地區内ノ警備ニ關スル事項
(横須賀海軍砲術學校)

○廳舎移轉

官 衙 名	移 轉 先	移 轉 日 日	記 事
本部 第一課 寺內	千葉縣東葛飾郡 小金町平賀本土	四月二日	旅行願路 常盤線北小金驛下車驛ヨ 電話約〇・七軒 電話小金九番
會 計 課 二課 (庶務關係)	東京都神田區駿 河臺一ノ八舊海 軍氣象本部	同 右	旅行願路 中央線御茶ノ水下車驛ヨ 電話約〇・三軒 流軍省直通電話二回線 神田一八七番、二二八番
報 務 課 二課 (關係統計)	横濱市港北區太 倉町大倉新文 化研究所内	昭和元年 二月一日	旅行願路 東横線大倉山驛下車驛ヨ 電話約〇・四軒 電話桐島五〇番
備 考 二 絡	第二課現業關係ハ從來通東京郡野町區竹平町二ノ一中央氣象 三〇二番ニ於テ作業續行中ナリ 電話九ノ内七〇七一、七〇七二、五 〇二番 海軍省直線電話 至急ヲ要スル文書事項等ハ東京郡神田區駿河臺一ノ八宛送付(連 絡)相成度	三月一日 同 右	

○本日軍極秘海軍公報第一二六號(甲配付)發行セリ
○本日海軍公報發行セズ

秘

205. 7

海軍公報 第五〇〇四號

昭和二十年五月七日(月)

海軍大臣官房

〇令 達

内令第三六一號

驅逐艦 初 梅

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

内令第三六二號

海防艦 高 根

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 高 根

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月二十六日

海軍大臣

内令第三六五號

海防艦 伊 唐

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

海防艦 伊 唐

右警備海防艦ト定メラル

吳鎮守府豫備哨戒艇

第百二號哨戒艇

佐世保鎮守府豫備哨戒艇

第百四號哨戒艇

右警備哨戒艇ト定メラル

横須賀鎮守府豫備驅逐艦

驅逐艦 春 風

右第四豫備驅逐艦ト定ム

昭和二十年四月三十日

海軍大臣

内令第三六六號(軍機秘海軍公報第二二七號(乙配付)ニ掲載)

内令第三六七號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年五月一日

海軍大臣

潜水艦、二等波二百一型ノ項中「波號第二百二ノ下ニ「波號第二百三、波號第二百四、波號第二百五、波號第二百六、波號第二百七、波號第二百八」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

秘海軍公報 第五〇〇四號 昭和二十年五月七日

四七九

1791

<p>内令第三六八號 昭和十八年内令第二二二三號航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ 件中左ノ通改正ス 昭和二十年五月一日 海軍大臣</p>	<p>第三十一海軍航空廠小松補給工場ノ所在地 石川縣江沼郡篠原村 石川縣小松市字浮柳 ニ改ム (内令提要卷一、三〇ノ二四ノ四頁参照)</p>	<p>内令第三六九號(軍械秘海軍公報第二二七號(乙配付)ニ掲載) 内令第三七〇號 潜水隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年五月一日 海軍大臣</p>	<p>第六潜水隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷一、六八頁参照)</p>	<p>内令第三七一號 輸送隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年五月一日 海軍大臣 第二輸送隊ノ項中「第百八號、」ヲ削ル (内令提要卷一、七四頁参照)</p>
<p>内令第三七二號 第六潜水隊 横須賀鎮守府練習兼整備潜水艦 呂號第五十七潜水艦 呂號第五十八潜水艦 呂號第五十九潜水艦 右役務ヲ解カル 横須賀鎮守府在籍</p>	<p>右本籍ヲ吳鎮守府ニ改定セラル 横須賀鎮守府豫備潜水艦 呂號第五十八潜水艦 呂號第五十九潜水艦 吳鎮守府在籍</p>	<p>右第四豫備潜水艦ト定ム 昭和二十年五月一日 海軍大臣</p>	<p>内令第三七三號 波號第二百三潜水艦 波號第二百四潜水艦 波號第二百五潜水艦 右本籍ヲ依世保鎮守府ト假定ス</p>	

<p>波號第二百六潛水艦 波號第二百七潛水艦 波號第二百八潛水艦</p> <p>右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス</p> <p>昭和二十年五月一日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第三七四號</p> <p>昭和十八年内令第三五六號別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和二十年五月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>「第十一特別根據地隊」ヲ「第十一根據地隊」ニ改ム</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ一九頁參照)</p>	<p>官房需第八五號</p> <p>昭和十八年官房需第二二〇號中左ノ通改正ス</p> <p>昭和二十年五月五日</p> <p>海軍大臣</p> <p>「内地」ノ下ニ「戰地及準戰地ヲ除ク」ヲ加フ</p> <p>(參照) 海軍會計法規類集二卷三三〇ノ二八頁</p>	<p>軍需糧第二九號</p> <p>昭和二十年五月六日</p>
<p>海軍省軍需局長</p> <p>各鎮守府參謀長 各警備府參謀長 各艦隊參謀長</p> <p>嘔嚼勵行ニ關スル件申進</p> <p>糧取糧食ノ營養効果昂揚及保健ノ見地ヨリ食事ノ嘔嚼勵行ニ關シテハ從來關係ノ向ニ示遠シアル處戰局ノ進展竝ニ米穀需給及搗精能力低減ノ狀況ニ伴ヒ今後玄米食或ハ混合食等ノ實施ヲ要スル事態豫想セラレ又各種食糧ノ供給漸次不足勝トナルベキヲ以テ搗取糧食ハ出來得ル限り之ヲ吸收スル如ク特ニ嘔嚼勵行ノ要アリ此ノ際具體的ニ指導相成度</p>	<p>軍需糧第五六號</p> <p>昭和二十年五月六日</p> <p>海軍省軍需局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>戰地ノ適用區域ニ關スル件中改正ノ件通知</p> <p>昭和十七年軍需糧第一九五號ノ二首題適用區域中左ノ通改正致候</p> <p>「八丈島」ヲ「伊豆諸島」ニ改メ「南鳥島」ノ下ニ「南西諸島」ヲ加フ</p> <p>(參照) 海軍會計法規類集三〇七頁</p>	<p>艦本機密第一號ノ六〇一一</p> <p>昭和二十年五月六日</p>	<p>四八一</p>

秘海軍公報 第五〇〇四號 昭和二十年五月七日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、佐世保、舞鶴、光
 横須賀、吳、佐世保、舞鶴
 海軍工廠總務部長 殿
 海軍軍需部長 殿
 砲用黃銅製藥莖外部塗裝廢止ニ關スル件照會
 砲用黃銅製藥莖ニ對シ從來施行シ來レル外部塗裝ハ今後當分之ヲ廢止ノコトニ取計相成度

○雜 款

○銓衡試驗問題發送

第二回 高等科 衛生術特技章付與銓衡試驗問題
 普通科 (試驗期日 昭和二十年六月一日)

右四月二十一日左記ノ通發送済、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ戸塚海軍衛生學校へ至急通知相成度

記

- 一 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、各警備府宛送付
- 二 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送(吳、舞鶴ハ各人事部へ一括送付)
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更等ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單獨試驗用問題若干送付済

(戸塚海軍衛生學校)

昭和二十年度前期 高等科 水雷術特技章付與銓衡試驗問題
 普通科 (試驗期日 昭和二十年六月一日)
 右四月二十五日左記ノ通發送済ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ海軍水雷學校へ至急通知相成度

記

- 一 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部宛送付
- 二 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更等ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ各海軍人事部及警備府宛單獨試驗問題若干部送付済

(海軍水雷學校)

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
第三千九百十九號警備隊	横須賀海軍施設部教導所(兵庫縣相生市播磨造船廠内)	四月二〇日		
第六百六十號海防艦隊	吳海軍施設部内	四月二三日		
第三百五十四號警備隊	同			
第三千三百十五號警備隊	佐世保海軍施設部	同	三〇二六番	

○本日軍械秘海軍公報第一二七號(乙配付)發行セリ
 配付先
 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

秘

5. 8
中

海軍公報 第五〇〇五號

昭和二十年五月八日(火)

海軍大臣官房

○令 達

内令第三七五號

海軍參謀官タル職員ニ關スル件中左ノ通改正セラレ

昭和二十年五月一日

海軍大臣

第一號ヲ第二號トシ以下順次繰下ゲ第一號トシテ左ノ如ク加フ
一 海運總監タル海軍將校

(昭和二年内令第三三六號内令提要卷一、一八ノ一頁參照)

内令第三七六號

海軍特別根據地隊ノ所管、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セラ

ル

昭和二十年五月一日

海軍大臣

佐世保鎮守府 第十一特別根據地隊

西貢

吳鎮守府 第二十五特別根據地隊

聯合艦隊司令長官ノ定ムル地ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五頁參照)

○通 牒

官房機密第一三四號ノ二九

昭和二十年五月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配付ニ關スル件中進

首題ノ件ニ關シテハ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第五一號ニ依リ處理相成度

追テ別冊ハ暗號圖書供給應ヨリ左ノ各部ニ配付ス配付殘部アリタルトキハ請求ニ依リ暗號圖書受給應ニ適宜配付差支ナキコトニ定メラル

各司令部、各軍需部、同支部、各通信隊、各通信學校、同分校

軍務一機密第三四二號

昭和二十年五月六日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長

各警備府參謀長

關係各廳長殿

敵使用電探欺瞞紙回收ノ件中進
敵機來襲ノ際味方電波探信儀欺瞞ノ爲使用セル首題品(錫箔又ハアルミ箔及是ニ紙ヲ裏打セルモノ)ハ簡單ナル處理ヲ以テ再使用可能ニ付極力多量ニ之ヲ蒐集シ左記ニ依リ送付方取計ヲ得度

秘海軍公報 第五〇〇五號 昭和二十年五月八日

四八三

1795

記

一 送付方法

(イ) 各廳ハ蒐集ノ都度最寄工作廳(兵器部、電氣部又ハ造兵部)ニ送付ス
(ロ) 工作廳ハ適當量毎ニ取纏メ左ニ宛送付ス
第二海軍航空廣横須賀補給工場芝浦倉庫(東京都芝區芝浦二丁目一番地)

二 通 報

各廳竝ニ各工作廳ハ送付票(適宜)寫一部ヲ海軍航空本部第五部長宛送付スルモノトス

○ 雜 談

○令達類處分方ニ關スル件
當隊解隊ニ付當際發布令達類ハ處分法ノ如何ニ拘ラズ確實ニ燒却處分ノ上其ノ旨左記ニ通知相成度

吳經理部 前川部隊 旭部隊

(第二水雷戰隊司令部)

○派遣隊設置ノ件

五月一日以降當分ノ開教育實施ノ爲當隊飛行學生ヲ千歲航空基地ニ派遣シ霞ヶ浦海軍航空隊千歲派遣隊ト呼稱ス
追テ學生教育關係書類ハ本隊ニ送付スルノ外寫一通同派遣隊ニ送付相成度

郵便物發送先 北海道千歲郡千歲町千歲航空基地霞ヶ浦海軍航空隊千歲派遣隊
(霞ヶ浦海軍航空隊)

○轉勤者赴任先

當航空基地ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度
所在地 石川縣小松市浮柳町
旅行順路 北陸線小松驛下車 陸路三軒強
追テ小松海軍航空隊トハ全然別個ノモノナリ爲念
(小松 航空 基地)

當魚雷調整班ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度

所在地 石川縣小松市浮柳町 小松航空基地内
旅行順路 北陸線小松驛下車 陸路三軒強
(小松航空基地氣付第四十八魚雷調整班)

○正誤

四月二十六日秘海軍公報第四九九五號令達欄官房經機密第二三五
一號戰時軍人軍屬旅費特例中附則第二項中「四月三十日」ハ「五月十五日」ノ誤

○本日海軍公報發行セス

秘

海軍公報 第五〇〇六號

昭和二十年五月九日(水) 海軍大臣官房

〇令 達

内令第三六五號ノ二
海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年四月三十日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中南方諸島海軍航空隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第三六五號ノ三

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年四月三十日

海軍大臣

硫黃島航空基地

南島島航空基地

南方諸島海軍航空隊

ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

官房軍第二二二號

當分ノ間横須賀海軍砲術學校ニ於テ使用ノ館山海軍砲術學校ノ

施設ノ中館山所在ノモノハ之ヲ横須賀海軍砲術學校館山分校及京都府與謝郡栗田村所在ノモノハ之ヲ横須賀海軍砲術學校栗田分校ト夫々部内限リ稱スルコトヲ得

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

官房人機密第三〇三號

本年四月二十五日現在館山海軍砲術學校職員タル者ハ特ニ發令セラルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ横須賀海軍砲術學校ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

官房人機密第三〇六號

本年五月一日現在第十一特別根據地隊職員タル者ハ特ニ發令セラルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第十一根據地隊司令部ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年五月一日

海軍大臣

官房軍機密第四七五號

並號委員會規程申左ノ通改正ス

秘海軍公報 第五〇〇六號 昭和二十年五月九日

四八五

1797

昭和二十年五月七日

海軍大臣

第一條及第二條第三號中「燃料」ノ下ニ「及松根油」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ五三ノ五頁参照)

官房需機密第一五六號

海軍需部長ハ同部在庫ノ艦需品中供給停止品等艦船部隊ニ供給ノ見込ナキ品種ニ就キ通常物品支辨各廳ノ直接戦力強化ノ爲ニ充當シ得ルモノアルトキハ當該廳ニ之ヲ保管轉換スルコトヲ得

昭和二十年五月八日

海軍大臣

官房教機密第五一號

昭和十九年官房教機密第四三八號ニ準シ左ニ依リ臨時通信術(受信)講習ヲ實施ス

昭和二十年五月八日

海軍大臣

講習回次	講習開始時期	講習員選抜範圍	講習指導官
第三次	昭和二十年五月五日	第一期乙種電信練習生	防府通信學校長
		横一 奥一 佐一 舞	

○通牒

軍需糧第一九號ノ二

昭和二十年四月一日

關係各廳長殿

海軍省軍需局長

糧食品單價ノ件通知

昭和十九年官房需第二六二號ニ依ル糧食品單價ハ昭和二十年度間昭和二十年軍需糧第一九號ノ單價ヲ準用致候

(参照) 官房需第二六二號 海軍會計法見類集三卷三三〇ノ四一頁 軍需糧第一九號 昭和二〇、四、二八海軍公報

軍需糧第一九號ノ三

昭和二十年四月一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航空糧食品單價ノ件通知

昭和十九年官房需第六三號ニ依ル首題單價昭和二十年度間左ノ通定メ候

品名	單位	單價
鷄卵	珓	二五〇
生牛乳	立	六五〇
粉末牛乳	珓	三九五〇
罐詰牛乳	同	一三〇〇
粉末鷄卵	同	九二〇〇

果汁シロップ	果汁	清涼飲料料	乳酸飲料料	紅ヒ茶シロップ	紅ヒ茶ミルク	紅ヒ茶又ハココア	砂糖	紅茶	オレンヂ	レモン	航空特種飲料	混汁用ビタミン(C)食	混汁用ビタミン(B ₁)食	混汁用ビタミン(A)食	綜合ビタミン食
同	同	同	同	同	立	同	同	同	同	同	立	同	同	同	同
一三〇〇	一三〇〇	八〇〇	一七〇〇	一二〇〇	七五〇	二〇〇〇	五四〇	三五〇〇	五五〇	一一〇〇	二〇〇〇	一〇四〇〇〇	七三〇〇〇	四五〇〇〇	二〇〇〇〇
<p>感 状</p> <p>(参照)海軍會計法規類集三卷三三〇ノ六頁</p> <p>海軍少將岩淵三次ノ指揮スルコマニラシ海軍防衛部隊 第三十一特別根據地隊司令部 第一大隊ノ一部(二月十日以後ノ殘留員) 第二大隊ノ一部(大發特攻隊) 第三大隊(大發特攻隊) 第四大隊(大發特攻隊) 第五大隊(大發特攻隊) 第六大隊(大發特攻隊) 第七大隊(大發特攻隊) 第八大隊(大發特攻隊) 第九大隊(大發特攻隊) 第十大隊(大發特攻隊) 第十一大隊(大發特攻隊) 第十二大隊(大發特攻隊) 第十三大隊(大發特攻隊) 第十四大隊(大發特攻隊) 第十五大隊(大發特攻隊) 第十六大隊(大發特攻隊) 第十七大隊(大發特攻隊) 第十八大隊(大發特攻隊) 第十九大隊(大發特攻隊) 第二十大隊(大發特攻隊) 第二十一大隊(大發特攻隊) 第二十二大隊(大發特攻隊) 第二十三大隊(大發特攻隊) 第二十四大隊(大發特攻隊) 第二十五大隊(大發特攻隊) 第二十六大隊(大發特攻隊) 第二十七大隊(大發特攻隊) 第二十八大隊(大發特攻隊) 第二十九大隊(大發特攻隊) 第三十大隊(大發特攻隊) 第三十一大隊(大發特攻隊) 第三十二大隊(大發特攻隊) 第三十三大隊(大發特攻隊) 第三十四大隊(大發特攻隊) 第三十五大隊(大發特攻隊) 第三十六大隊(大發特攻隊) 第三十七大隊(大發特攻隊) 第三十八大隊(大發特攻隊) 第三十九大隊(大發特攻隊) 第四十大隊(大發特攻隊) 第四十一大隊(大發特攻隊) 第四十二大隊(大發特攻隊) 第四十三大隊(大發特攻隊) 第四十四大隊(大發特攻隊) 第四十五大隊(大發特攻隊) 第四十六大隊(大發特攻隊) 第四十七大隊(大發特攻隊) 第四十八大隊(大發特攻隊) 第四十九大隊(大發特攻隊) 第五十大隊(大發特攻隊) 第五十一大隊(大發特攻隊) 第五十二大隊(大發特攻隊) 第五十三大隊(大發特攻隊) 第五十四大隊(大發特攻隊) 第五十五大隊(大發特攻隊) 第五十六大隊(大發特攻隊) 第五十七大隊(大發特攻隊) 第五十八大隊(大發特攻隊) 第五十九大隊(大發特攻隊) 第六十大隊(大發特攻隊) 第六十一大隊(大發特攻隊) 第六十二大隊(大發特攻隊) 第六十三大隊(大發特攻隊) 第六十四大隊(大發特攻隊) 第六十五大隊(大發特攻隊) 第六十六大隊(大發特攻隊) 第六十七大隊(大發特攻隊) 第六十八大隊(大發特攻隊) 第六十九大隊(大發特攻隊) 第七十大隊(大發特攻隊) 第七十一大隊(大發特攻隊) 第七十二大隊(大發特攻隊) 第七十三大隊(大發特攻隊) 第七十四大隊(大發特攻隊) 第七十五大隊(大發特攻隊) 第七十六大隊(大發特攻隊) 第七十七大隊(大發特攻隊) 第七十八大隊(大發特攻隊) 第七十九大隊(大發特攻隊) 第八十大隊(大發特攻隊) 第八十一大隊(大發特攻隊) 第八十二大隊(大發特攻隊) 第八十三大隊(大發特攻隊) 第八十四大隊(大發特攻隊) 第八十五大隊(大發特攻隊) 第八十六大隊(大發特攻隊) 第八十七大隊(大發特攻隊) 第八十八大隊(大發特攻隊) 第八十九大隊(大發特攻隊) 第九十大隊(大發特攻隊) 第九十一大隊(大發特攻隊) 第九十二大隊(大發特攻隊) 第九十三大隊(大發特攻隊) 第九十四大隊(大發特攻隊) 第九十五大隊(大發特攻隊) 第九十六大隊(大發特攻隊) 第九十七大隊(大發特攻隊) 第九十八大隊(大發特攻隊) 第九十九大隊(大發特攻隊) 第一百大隊(大發特攻隊)</p>															
粉末シロップ	氷	生果	罐詰果物	乾果	特種榮養食	果實	炭酸入葡萄酒	火酒	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	立	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一八〇〇	〇三〇	四五〇	一三五〇	二〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	四〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇

右者二月三日「マニラ」市ノ戰鬪開始以來三月月上旬迄募兵克ク「マニラ」市ヲ死守シ勇戰敢鬪皇軍ノ眞價ヲ遺憾ナク發揮シ甚大ナル戰果ヲ收メタルハ其ノ武功拔群ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年三月十五日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

感 狀

特設監視艇第五千秋丸

昭和二十年二月二十四日夜本土南方洋上哨戒ニ從事中敵機動部隊ノ北上スルヲ發見爾後之ニ觸接シ有効適切ナル敵情ヲ逐一速報シ我邊擊作戰ニ寄與スル所大ナリシハ其ノ功績顯著ナリト認ム仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年三月十五日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

感 狀

第一機動基地航空部隊

昭和二十年三月十八日敵機動部隊本土西方ニ來襲スルヤ四日間晝夜ニ亘リ機略強靱ナル作戰ヲ以テ殊死奮戰シ敵正規航空母艦五隻其ノ他數隻ヲ擊滅セルハ其ノ功績顯著ナリ
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年三月二十四日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

感 狀

第三四三海軍航空隊

昭和二十年三月十九日敵機動部隊艦上機ノ主力ヲ以テ内海西部方面ニ來襲スルヤ之ヲ松山基地ニ邀撃シ機略ニ富ム戰鬪指導ト尖銳果敢ナル戰鬪實施トニ依リ忽ニシテ敵機六十餘機ヲ擊墜シ全軍ノ士氣ヲ昂揚セルハ其ノ功績顯著ナリ
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年三月二十四日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○ 雜 款

○ 事務所撤去

事 務 所 名	撤去月日	記 事
第百七十三號輸送艦裝員事務所	四月一日	
第百五十八號海防艦裝員事務所	四月一三日	
第百零二號海防艦裝員事務所	四月二〇日	
笠置艦裝員事務所殘務整理班	四月二五日	
第五監視艦隊殘務整理班	四月二八日	
驅逐艦若櫻艦裝員事務所	同	
海軍練習聯合航空總隊殘務整理班	四月三〇日	

○本日軍極秘海軍公報第二二八號(甲配付)發行セリ



海軍公報 第五〇〇七號

昭和二十年五月十日(木) 海軍大臣官房

○令 達

達第九六號
浪速船渠株式會社ニ於テ改装中ノ改D型戰時標準船一隻ヲ左ノ
通命名ス

昭和二十年五月五日

海軍大臣

軍艦 箕面(ミノオ)

達第九七號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ潜水艦二隻、海防艦一隻及特
務艇七隻ニ左ノ通命名ス

昭和二十年五月五日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

波號第二百九潜水艦

波號第二百十潜水艦

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 室津(ムロツ)

村上造船所ニ於テ建造

第二十七號哨戒特務艇

株式會社船隻造船鐵工所ニ於テ建造

第三十三號哨戒特務艇

第三十四號哨戒特務艇

有限會社福島造船鐵工所ニ於テ建造

第一百五十六號哨戒特務艇

林兼重工業株式會社ニ於テ建造

第一百六十六號哨戒特務艇

德島合同造船株式會社ニ於テ建造

第一百七十六號哨戒特務艇

第一百七十七號哨戒特務艇

內令第三七七號

海運總監部令左ノ通定メラル

昭和二十年五月一日

海軍大臣

海運總監部令

第一條 大東亞戰爭中大本營ニ海運總監部ヲ置ク

第二條 海運總監部ハ海上輸送計畫、配船、船舶準備ノ計畫等
ヲ管掌スル所トス

第三條 海運總監部ノ編制ハ附表ニ據ル

第四條 海運總監部ニ於ケル勤務ハ左ノ各號ニ據ル

1801



秘海軍公報 第五〇〇七號 昭和二十年五月十日

四八九

- 一 海運總監ハ參謀總長、軍令部總長ノ指揮ヲ承ケ海運總監部管掌事項ヲ統理ス
- 海運總監ハ陸海軍關係ノ海上輸送業務ニ關シ夫々參謀次長(兵站總監)及軍令部次長ノ指示ヲ受ケ
- 二 海運總監ハ參謀總長及軍令部總長ノ意圖ニ基キ海上輸送計畫ヲ策定シ之ニ基ク配船(調整ヲ含ム)ヲ爲シ船舶司令官、鎮守府司令長官、警備府司令長官、海運總局長官及鐵道總局長官ニ對シ所要ノ指示ヲ與フ
- 海運總監ハ船舶運用ニ必要ナル船舶準備ノ大綱ヲ計畫シ其ノ實施ヲ夫々關係機關ニ要請ス
- 海運總監ハ船舶乘員ヲ指揮監督ス
- 三 海運總監部參謀長ハ海運總監ヲ輔佐シ海運總監ノ意圖ヲ承ケ海運總監部一般ノ業務ヲ統制シ海運總監部參謀副長以下海運總監部勤務員ノ勤務ヲ指揮監督スルヲ任トス
- 四 海運總監部參謀副長ハ主トシテ船舶兵裝、修理、船用品ノ整備、補給、護衛等ニ關シ參謀長ヲ輔佐ス
- 五 海運總監部參謀ハ海運總監部參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 六 海運總監部副官ハ海運總監部參謀長ノ命ヲ承ケ海運總監部内ノ庶務ニ任ス
- 七 海運總監部ニ勤務スル佐尉官及高等文官ハ海運總監部參謀長ノ定ムル處ニ依リ服務ス
- 八 海運總監部ニ勤務スル下士官、判任文官等ハ夫々上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第五條 海運總監缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下將校中上級古參ノ者其ノ職務ヲ代理ス

海運總監部編制表

海運總監	大	(中)	將	陸海軍部隊ノ職員ヲシテ兼ネシムルモノトス
參謀長	中	(少)	將	
參謀副長	少		將	
參謀	佐	(尉)	官	
副官	佐(尉)官	(海軍主計佐(尉)官)	二	
右ノ外左ノ人員ヲ附又ハ附屬トシテ勤務セシムルコトヲ得				
佐(尉)官(主計佐(尉)官)	二〇	高等文官	一五	
下士官(判任文官)	三五	嘱託	一八〇	

内令第三七八號

艦船部隊殘務整理規程左ノ通改正ス

昭和二十年五月一日

海軍大臣

艦船部隊殘務整理部規程

- 第一條 大東亞戰爭中各鎮守府ニ艦船部隊殘務整理部ヲ置ク
- 第二條 艦船部隊殘務整理部ハ鎮守府司令長官ノ指定スル艦船部隊等ノ殘務整理ニ關スルコトヲ掌ル
- 第三條 艦隊又ハ警備府所屬ノ艦船部隊等ニシテ殘務整理ノ必要ヲ生ジタルトキハ所屬長官ハ速ニ資料ヲ整備シテ當該艦船

部隊等ノ所管鎮守府ノ司令長官ニ殘務整理ノ施行ヲ委託スベシ

第四條 艦船部隊殘務整理部ニ部長、部員及附ヲ置ク

第五條 部長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ殘務整理ニ關シテハ當該艦船部隊等ノ長ニ代リ之ヲ行フモノトス

第六條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條 附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第八條 艦船部隊殘務整理部ハ常ニ海軍人事部、海軍經理部、海軍軍需部、海軍運輸部、海兵團等ト氣脈ヲ通ズベシ

海軍人事部及海軍經理部ハ殘務整理ニ關シ艦船部隊殘務整理部ニ協力スルモノトス

第九條 殘務整理ニ當リテハ機密保持ニ關シ特ニ留意スベシ

艦船部隊殘務整理部ハ機密保持ノ必要ニ應ジ何鎮守府整理部ト略稱スルコトヲ得

第十條 艦船部隊殘務整理部ノ定員ハ別表ニ依ル

(別表添)

(内令提要卷二、三九頁參照)

○ 通 牒

官房經第二七〇號

昭和二十年五月八日

海 軍 次 官

祕海軍公報 第五〇七號 昭和二十年五月十日

關係各廳長殿

海軍管理工場在籍者、勤勞學徒及女子挺身隊員等ノ戰時災害ニ因ル死歿者ニ對スル供物料等ニ關スル件申進

大東亞戰爭中帝國內ニ在ル海軍ノ管理又ハ監督ニ係ル工場事業場ニ於ケル在籍者、勤勞學徒(勤勞學徒ノ監督指導ニ當ル學校教職員ヲ含ム)及女子挺身隊員ニシテ其ノ業務ニ從事中戰時災害(戰闘行為ニ因ル災害及之ニ起因シテ生ズル災害)ニ因リ死歿シ海軍軍屬ト爲リタルモノノ供物料等ニ關シ左記ノ通定メラレ候

追テ本件ハ既往ニ遡リ適用セシメラルル趣旨ニ有之候

記

- 一 海軍葬儀ハ當該工場事業場ノ監督長又ハ監理長ニ於テ特ニ必要ト認メ所屬長官ノ認許ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ行ハズ海軍葬儀ヲ行フ場合ハ其ノ費用ヲ官費支辨ト爲スコトヲ得
- 二 海軍葬儀ヲ行ハザル場合ハ當該監督長又ハ監理長ハ當該工場事業場ニ於テ施行スル葬儀ニ際シ左ニ依リ供物料ヲ供スルコトヲ得

- (イ) 海軍大臣ノ名ニ於テ 一回ニ付 三十圓
- (ロ) 當該監督長又ハ監理長ノ名ニ於テ 一回ニ付 二十圓
- 三 當該工場事業場ノ監督長又ハ監理長ハ海軍葬儀ヲ行フト否トニ拘ラズ左ニ依リ香華料ヲ遺族又ハ之ニ準ズル者ニ供スル

1803

ルルコトニ相成リ之ニ關シ別紙ノ通官内次官ヨリ通牒有之候條

此段移牒ニ及ビ候

(別紙)

丙發第五九九號

昭和二十年三月十五日

官内次官男爵 白根松介

内閣書記官長 石渡莊太郎殿

通牒

定期ノ敍位ニ付敍位者ニ賜ハルヘキ位記ハ正二位以下從四位以上ノ在京者ニ就テハ從來敍位式ヲ行ヒ傳達致居候處自今當分ノ間之ヲ停止シ該位記ハ在京者以外ノ分ト同様敍位ヲ上奏セル官廳ノ長官ヲシテ傳達センメラルル様決定相成候條此ノ旨貴官ヨリ其ノ向ヘ傳達方可然御取計相成度

教育機密第二〇七號

昭和二十年五月八日

海軍省教育局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長 殿

法務術特技兵臨時講習教程標準ノ件通牒

昭和十九年官房入機密第一七八八號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通

(別紙)

コトヲ得

(イ) 海軍大臣ノ名ニ於テ 一柱ニ付 十四

(ロ) 當該監督長又ハ監理長ノ名ニ於テ 一柱ニ付 十四

四 前三號ニ規定スルモノノ外海軍ノ給與(昭和十九年海軍機

密第二六五號ニ依ル見舞金ヲ含ム)ヲ支給スルコトナシ

五 第一號乃至第三號ノ支辨科目ハ臨時軍事費臨時軍事費諸支

出金雜件費トス

官房入機密第三〇四號

昭和二十年五月八日

海軍省副官

關係各廳長 殿

敍位式停止ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通内閣書記官長ヨリ通牒有之候ニ付了知相成度

(別紙)

内閣入閣位第五四號

昭和二十年三月二十九日

内閣書記官長 石渡莊太郎

海軍次官 井上成美殿

敍位式停止ニ關スル件

定期ノ敍位ニ付從來行ハレタル敍位式ハ自今當分ノ間停止セラ

法務省特許兵臨時講習教程標準

科	日	項	日	教授回数 (平日一回トス)	二箇月教程
憲法		國體、天皇大權、臣民ノ權利		四	
刑法		刑法其ノ他主要刑罰法令大要		一六	
刑罰法令		海軍刑法大要		八	
刑事手續法		海軍軍法會議法大要		一〇	
行刑法令		海軍監獄令及同施行細則大要		八	
軍律		支那事變以後ノ海軍軍律大要		四	
懲罰令		海軍懲罰令大要		四	
搜查要領		犯罪搜查ノ要領、犯人逮捕ノ要領		一二	
戒護要領		戒護、教化及押送ノ要領、戒具使用法		八	
普通學		國語、作文		一〇	
補科		陸戰、信號術(手旗信號)、庶務(文書取扱、人事概要)、武技、體操、體技		適宜	

○司令海防艦變更
第二十一海防隊司令ハ四月二十五日司令海防艦ヲ海防艦新南ニ變更セリ

○雜款

秘海軍公報 第五〇七號 昭和二十年五月十日

○昭和二十年五月中ニ於ケル海軍關係員ニ對スル訓令ニ依ル諸講習實施一覽表

番號	種類	別	場所	期日	員數	記	事
一	船長(對港警戒)	港校	五、五、二	約三	第四回		
二	航海士(一航)	航海校	五、五、八	約三	第五回		
三	航海士(二航)	對港校	五、五、三	約三	第四回		
四	甲板長操機長	航校	五、五、八	約三	第五回		
五	普通船員(水測)	港校	五、五、二	約三	第四回		
六	乘船機定(淡煙焚火)	機校	五、五、四	約三	第五回		
七	給水員(水管雜船)	同右	五、五、七	約三	第四回		
八	船舶通信士(水測)	電測校	五、五、四	約三	對港校及電測校		
九	航海訓練所練習船對港警戒(豫備生徒等)	港校	未定	約三	後半電測校及通校		

(海軍省教育局)

○詮衡試験問題發送

昭和二十年前期 掌艦兵特技章付與詮衡試験問題 (高等科)
同 右 採點標準 同 右
(試験期日 昭和二十年六月一日)

四九三

右五月三日左記ノ通發送濟ナルモ未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府若ハ當隊ニ至急照會相成度

記

- 一 聯合試験用ノモノハ各海軍人事部、各警備府宛送付
- 二 單獨試験施行豫定ノ所轄ニ直送
- 三 他ニ聯合試験参加豫定ノ艦船等ニシテ行動豫定變更等ノ爲聯合試験参加不能ノ向ニ對スル分トシテ豫備若干各海軍人事部、各警備府宛送付

(第二十聯合航空隊)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
五月十日 一〇〇〇	故海軍中尉成田利夫外諸勇士	青森地方海軍人事部長	青森事務室靈安所	佛式
五月十日 一〇〇〇	故海軍一等兵曹久米村春次外諸勇士	鎮海海軍人事部長	鎮海邑海仁會集會所	神式
五月十九日 一三〇〇	故海軍主計少佐大西 功外諸勇士	札幌地方海軍人事部長	札幌市東本願寺	佛式

○本日軍報秘海軍公報第二二九號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事
第五十三號海防艦 殘務整理班	吳海軍經理部内吳領守府殘務整理班内	四月二〇日		
特設運送船 良榮丸 殘務整理班	同	四月二四日		
第三千二百十四設 營隊事務所	佐世保海軍施設部第三課内	四月二五日		
第六潜水隊 殘務整理班	横須賀局 氣付呂號第五十八潜水艦内	五月一日		五月一日解除

(内令第三七八號別表)

(昭和二十年五月十日祕海軍公報)

艦船部隊殘務整理部定員表

考 備	計		部 員	長
	特 務 士 官	士 官		
一 部長ハ海軍經理部長ヲ以テ之ニ充ツ 二 部員ハ海軍人事部ノ課長一人、海軍經理部ノ課長一人、海軍人事部部員一人、海軍軍需部部員一人、海軍經理部部員一人及鎮守府ニ臨時増置ノ主計科尉官(主)一人ヲ以テ之ニ充テ鎮守府司令長官之ヲ命ズ 三 下士官ハ鎮守府ニ臨時増置ノ指定ノモノヲ以テ之ニ充ツ 四 本表ノ外鎮守府司令長官ハ必要ニ應ジ他ニ本職アル士官及特務士官以下ノ一部ノ者ニ臨時附ヲ命ズルコトヲ得	一人	六人	大 計 大 佐 一 主 計 中 少 佐 三 主 計 尉 官(主) 一	主 計 中 少 將 一
	下 士 官	十人	附 兵 關 兵 曹 十 機 關 兵 曹 主 計 兵 曹	

秘

5.11

海軍公報 第五〇〇八號

昭和二十年五月十一日(金)
海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ九

大正十一年海軍省告示第五號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

(參照) 大正十一年海軍省告示第五號ハ第二艦隊ニ軍法會議ヲ置ク
ノ件ナリ(諸例則卷四、四四九頁)

海軍省告示第一號ノ一〇

吳鎮守府軍法會議ヲ第二艦隊軍法會議ノ後繼軍法會議ニ指定ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

○令 達

官房艦機密第一二九四號

大東亞戰爭中所屬以外ノ鎮守府又ハ警備府ノ警備區内ニ常駐スル部隊、同區域内ニ在ル學校(特設部隊、分遣隊、派遣隊、訓練所、分校等ヲ含ム)等ニ對スル兵器供給所管海軍軍需部ハ兵器經理規程第十一條及其ノ他ノ規定ニ拘ラズ特ニ左ノ區分ニ依ル

昭和二十年五月八日

海軍大臣

所管海軍軍需部	供給ヲ受クベキ各廳
橫須賀海軍軍需部	橫須賀鎮守府警備區所在ノ部隊學校等
吳海軍軍需部	吳鎮守府警備區所在ノ部隊學校等
佐世保海軍軍需部	佐世保鎮守府警備區所在ノ部隊學校等
舞鶴海軍軍需部	舞鶴鎮守府警備區所在ノ部隊學校等
大湊海軍軍需部	大湊警備府警備區所在ノ部隊學校等
鎮海海軍軍需部	鎮海警備府警備區所在ノ部隊學校等
高雄海軍軍需部	高雄警備府警備區所在ノ部隊學校等
大阪海軍軍需部	大阪警備府警備區所在ノ部隊學校等

官房入機密第三〇五號

昭和十九年勅令第九十九號ノ規定ニ依リ五月一日附任用セラレタル海軍技術少將木村 喬ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通定ム

昭和二十年五月九日

海軍大臣

海軍技術少將池谷増太「五七」ノ次ニ
海軍技術少將 木村 喬(公筆ノミ)

秘海軍公報 第五〇〇八號 昭和二十年五月十一日

四九五

1808

官房需第八六號

昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ通改正ス

昭和二十年五月九日

海軍大臣

別表第一中

主食品ノ部記事ノ欄(1)中「内地」ノ下ニ「(戰地及準戰地ヲ除ク)」ヲ加ヘ「臺灣」ヲ削ル

副食品ノ部記事ノ欄(1)中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

保健食品ノ部記事ノ欄中「本邦(内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州)」ヲ「内地(戰地及準戰地ヲ除ク)、朝鮮、樺太及關東州」ニ、混汗用ビタミン(B)食ノ項記事ノ欄(1)中「若

ハ北緯三十度以南臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)」ヲ、「伊豆諸島、薩南諸島、北緯三十度以南」ニ改ム

備考第七中「北緯二十四度以南(自九月十六日至六月十五日臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)」ヲ「伊豆諸島、薩南諸島、北緯三十度以南」ニ改ム

別表第二中

副食品ノ部無骨生獸肉ノ項記事ノ欄中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

保健食品ノ部鶏卵ノ項記事ノ欄中「本邦(内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州)」ヲ「内地(戰地及準戰地ヲ除ク)、朝鮮、樺太及關東州」ニ改ム

備考第五中「北緯二十四度以南(自九月十六日至六月十五日臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)」ヲ「伊豆諸島沿岸、薩南諸島沿岸、北緯三十度以南」ニ改ム

別表第四中

(米)ノ項記事ノ欄中「内地」ノ下ニ「(戰地及準戰地ヲ除ク)」ヲ加ヘ「臺灣」ヲ削ル

乾パン(夜非常勞働食)ノ項記事ノ欄中「本邦(内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州)以外ノ地域」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改ム

(參照) 海軍會計法規集三卷三二〇ノ一ノ二頁

○ 通 牒

官房需第二五九號

昭和二十年五月五日

海軍省 副官

各 廳 長 殿

海軍省軍需局新機構ニ關スル件通知

現戦局下燃料、衣糧等ノ軍需戰備ニ遺憾ナカラシムル爲首題ニ關シ本月五日附關係法規中改正セラレタル處其ノ要旨左記ノ通ニ有之候

記

一 軍需局ヲ總務部(第一課及第二課)、第一部、第二部(第一

課乃至第三課、第三部(第一課乃至第三課)及第四部(第一課乃至第三課)ノ五部制トシ各部ノ主要所掌事項左ノ如シ

部	主 要 所 掌 事 項	記 事
總務部	一般事項及局事務ノ綜合調整	
第一部	經營用品及港用品並ニ軍需部關係ノ事務 (兵器ニ關スルコト及他ノ部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク)	舊第一課
第二部	燃料並ニ燃料廠關係ノ事務及燃料ニ關スル 軍需部ノ事務	舊第二課ノ大部
第三部	衣糧並ニ衣糧廠關係ノ事務及衣糧ニ關スル 軍需部ノ事務	舊第三課及臨時倉庫班並ニ製材班
第四部	所掌ニ係ル施設、裝設、機器類ノ設計及製 造並ニ資材ニ關スル事務	舊資材班及製材班ヲ含ム

二 海軍燃料廠長及海軍衣糧廠長ハ生産及技術上ノ事項ニ關シ、海軍軍需部長ハ艦營用品、燃料、被服及糧食ノコトニ關シ、海軍省軍需局長ノ指示ヲ承ク

三 軍需局ニ製圖工場ヲ置キ工員ヲ使役ス

教育機密第二〇八號

昭和二十年五月八日

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長 殿

新任法務科士官、特務士官、准士官及下士官
ノ軍事學基礎講習ニ關スル件申進

海軍公報 第五〇〇八號 昭和二十年五月十一日

海軍法務科武官任用特例ニ依リ五月十五日附法務科ノ士官、特務士官、准士官又ハ下士官ニ任用セラルル者ニ對スル首題講習ハ左表ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

講習員	講習期間	講習場所	講習要領	勤務地		
				第一回	第二回	第三回
	自六月一日 至六月三十日	海各兵團地	(一) 各地軍法會議及刑務所最寄海兵團長ヲ指導官トシ其ノ定ムル所ニ依リ講習ヲ實施ス	(二) 講習員ハ別表ニ依リ三回分チテ指定海兵團ニ派遣シ分テ起居セシメ講習ヲ實施ス	(三) 講習員ハ別表ニ依リ三回分チテ指定海兵團ニ派遣シ分テ起居セシメ講習ヲ實施ス	對シテハ海軍省軍需局長ノ指示ヲ承ク
勤務者	自七月一日 至七月三十日	海各兵團地	(一) 各地軍法會議及刑務所最寄海兵團長ヲ指導官トシ其ノ定ムル所ニ依リ講習ヲ實施ス	(二) 講習員ハ別表ニ依リ三回分チテ指定海兵團ニ派遣シ分テ起居セシメ講習ヲ實施ス	(三) 講習員ハ別表ニ依リ三回分チテ指定海兵團ニ派遣シ分テ起居セシメ講習ヲ實施ス	對シテハ海軍省軍需局長ノ指示ヲ承ク
外務者	自八月一日 至八月三十日	海各兵團地	(一) 各地軍法會議及刑務所最寄海兵團長ヲ指導官トシ其ノ定ムル所ニ依リ講習ヲ實施ス	(二) 講習員ハ別表ニ依リ三回分チテ指定海兵團ニ派遣シ分テ起居セシメ講習ヲ實施ス	(三) 講習員ハ別表ニ依リ三回分チテ指定海兵團ニ派遣シ分テ起居セシメ講習ヲ實施ス	對シテハ海軍省軍需局長ノ指示ヲ承ク
記事	別表ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス 講習終了セバ指導官ハ指導計劃及實施經過ノ概要ニ對シテ見テ附シ各所屬長官及海軍大臣ニ報告スルモノトス					

航機機密第三三六三六號

昭和二十年五月十日

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

四九七

左右傾斜計三型裝備ノ件照會

首題ノ件左記ニ依リ旋回計二型ト極力換裝使用相成度

記

一 目的

轉輪計器生産能力不足ニ付簡易計器ニテ代用スルニ在リ

二 裝備機種(昭和二十年三月二日航本機密第一八〇五號別冊航空計器裝備表參照)

九三式陸上中間練習機前後席共

九三式水上中間練習機前後席共

零式練習戰鬥機後席

三 實施要領

本兵器ヲ補給屬ヨリ受入ノ上各隊ニ於テ換裝シ不要旋回計ハ極力還納スルモノトス

四 實施時期

可及的速ニ

○ 雜 款

内令提要別冊(定員關係)追録第十號(二月二十八日現在)四月三十日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

十版内令提要追録第二十四號(二月二十八日現在)五月七日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成

度		開 隊		(海 軍 省 副 官)	
官衙、部隊名	所在地	開、閉	開、閉	記	事
第九〇一海軍航空隊博多派遣隊	福岡縣糟屋郡志賀島村博多海軍航空隊内	三月六日	三月六日	郵便物發送先	福岡縣糟屋郡志賀島村博多海軍航空隊經由ウ三二四ウ二二二
第六海軍補充部出張所	基隆市壽町三ノ一七	三月、六日	三月、六日	郵便物發送先	基隆局氣付イ一九八一
西海海軍航空隊宇佐派遣隊	大分縣宇佐郡八幡村	四月二五日	四月二五日	旅行願書	豐線前善光寺驛下車
				郵便物發送先	大分縣宇佐郡乙女郵便局
				郵便物發送先	海軍佐原部隊佐藤
○事務所撤去					
伊號第三百七十三潜水艦艇裝具事務所		四月一四日			
第七十五號海防艦艇裝具事務所		四月二一日			
海防艦高根艇裝具事務所		四月二六日			
第百五號海防艦艇裝具事務所		四月三〇日			

〔教育機密第二〇八號別表〕

〔昭和二十年五月十一日秘海軍公報〕

内地講習員派遣区分	派遣要領	講習中實施スベキ法務科術科目	
		准士官以上	下士官
高等軍法會議 東京軍法會議 横須賀鎮守府軍法會議 横須賀海軍刑務所	(一) 各軍法會議首席法務官及各刑務所長ハ各回別講習員名簿ヲ調製シ五月二十五日迄ニ派遣先海兵團長ニ送付スルモノトス (二) 刑務所長タル法務科士官及特務士官ハ所轄長ノ本務遂行ニ支障ナキ範圍ニ於テ適宜講習参加ノコトトシ海軍ノ他科下士官以上ノ經歷アル者ハ海兵團ニ起居セシメズ本務ノ傍法務科ノミ受講セシムルコトヲ得	(一) 主要刑事法規 主要行刑法規 戒嚴令 現行海軍軍律 一般衛生大要 行刑衛生ニ必要ナル程度 庶務關係規程	(一) 主要刑事法規 主要行刑法規 現行海軍軍律 搜查要領 戒護要領
吳鎮守府軍法會議 吳海軍刑務所	(三) 海兵團ニ起居セシムベキ講習員ハ講習開始ノ前日入團セシムルモノトス (四) 各警備府所在地軍法會議刑務所等講習員少ナキ箇所ニ於テハ派遣廳長ト講習實施海兵團長トノ協議ニ依リ適宜派遣要領ヲ定ムルコトヲ得	(二) 行刑衛生ニ必要ナル程度 庶務關係規程 職務主任須知 事項 敘位敘勳任用 進級等	
佐世保鎮守府軍法會議 佐世保海軍刑務所			
舞鶴鎮守府軍法會議 舞鶴海軍刑務所			
大湊、大阪、鎮海、高雄各警備府軍法會議及 各海軍刑務所			
備考	一般衛生大要及庶務關係規程ヲ除ク法務科術科目ノ講習ハ講習實施海兵團所在地軍法會議又ハ刑務所ヨリ教官トシテ法務科士官又ハ特務士官ノ派遣ヲ受ク實施スルモノトス		